

今日は家族と娘の友達みんなで海へ遊びに来ていた。  
みんな楽しそうにはしゃいでいる。  
そんな時、少し離れた場所から、こちらへとスマホを操作する男性がいた。  
まなつ達の動きを追うようにスマホのレンズを向けているように見える。

お父さん、あの人……。

ん？ 見かけない顔だね…観光客かな？  
放っておけばどこかへ行くさ。

そう？ でも……。

ああいうタイプの人にはあまり関わらない方が無難だ。  
それにまなつ達を撮影しているとも限らないだろう？

そう、ね……。



だがその男の人を観察していると、あきらかに……。あの子達が無邪気に飛び跳ねると、男もニヤリと顔を歪ませていた。

……やっぱり私、ちょっとだけ注意してくるわ。

勝手に娘たちの水着姿を撮影されて気分がいい親はいない。ひとまず撮影しているのかを確認するだけでもいい。

うーん、やめておいたほうがいいと思うがなあ。

大丈夫よ。ちょっとだけ話をして、撮るのをやめてもらうだけだから。それに何かあってもあなたが助けてくれるでしょ？

ん、まあそれはそうなんだが。

ウインクして冗談っぽく言うと、恥ずかしそうな返事が返ってきた。それに満足した私は、立ち上がり、夫に小さく手を振ってから男性の元へ近づいていった。



ねえ、そのあなた。

声をかけるとスマホの画面に向いていた視線がこちらへ。顔から胸元へと視線が下がると、ヒューウと口笛を鳴らした。なんとも失礼な態度だった。

お姉さんなにか用？逆ナン？

違います。あなた、娘達のことそのスマホで撮影してませんか？もしそうなら保護者として、今すぐやめてほしいんですけれど。

へえ、旦那がいるんだ。全然そうは見えないね。

そっかあ、お姉さんそんな見た目で人妻なんだあ……。

今回は乳がデカくてエロい人妻にするついでのもいいな。

……何を言ってるんですか、あなたは。そんなことより、撮影、してたんですか？

ああ、してたよ。あんたの娘さんたちをばっちりね。後でオナネタにしたり、ネットにアップしようと思っただね。なっ!?



想定もしていないような直接的で下品な言葉に思わず顔をしかめる。

（やっぱり放っておかなくてよかった）

そんなこと勝手にするなんてダメよ！  
早く撮影したデータを消してください！  
もし拒否するならだれか――

ああ、いいよいいよ。

消す消す。消すつて。

!? そつ、そう…。

ありがとうございます。

すんなりとこちらの要求を受け入れてくれた。  
最低限のマナーは持っていたのだろうか？

（でもよかった…これで安心ね。）

これを消せばいいんだろ？ ほら。この動画。

男性がこちらにスマホの画面を向けてくる。  
私も撮影された動画を確認しておこうとスマホに目を向けた――

あ……え……？

よくわからない、模様?のような画面をみた瞬間、意識が遠のいた。だがそれも一瞬。その眩暈のような感覚はすぐに消えていった。

(な、なんだったのかしら、今の……)

ほんと、みんな簡単に引つかかるんだよな。さ、お姉さん、データを消すためにあつちの岩陰に行こうか。

え? あ、ええ。岩陰に行きましょう。

そこで絶対に消してもらいますからね?

わかったわかった。ほら、安心させるために旦那に手を振って。

そうね。

少し離れたところにいる夫に、大きな声で大丈夫だと伝え、笑顔で手を振る。するとあちらも、わかった!と手を振り返してくれた。

さて、それじゃあ行こうか、エロい体の人妻さん。

ええ、早く行きましょう。

娘たちのために、私は彼と急いで人気のない岩場へと向かった。



まったく、勝手に女の人を撮影しちやダメなのよ、わかった？

へーい。

みんなが遊ぶ浜辺からは見えない岩陰に着いた私は早速、お説教をしていた。彼もおとなしく話を聞いている。

まったくもう。本当にわかってるのかしら？

あまりに軽い返事にちょっとした不安を覚えてしまう。

それじゃあお説教はここまで。  
後はセックスで勝負をして、私が勝ったらちゃんとデータを消すのよ？

おっ、ようやく本題か。オーケー。その代わりに俺が勝ったら……。

ええ。あなたの部屋に行って2回戦ね。  
私が勝つまで、恋人みたいに何度でもセックスしてもらおうよ。

くく…仕方ないから受けてやるよ。

だがそれでも俺が勝ち続けて旅行の最終日になったら、家まで着いてきてもらうぜ。  
そこで飽きるまで飼ってやるからよ。

データを消してもらえないならそのくらいの条件、問題ないわ。  
それに負けるわけがないもの。いいから始めましょう。

じゃあほら、そのデカイケツこつちに向けろ。

私のほうが年上なんだから、敬語を使うなり、礼儀つてものを――

いいからいいから。

ほら、手をこつちに……よーしいい子だ。

(これで勝ったらもう会う事もないだろうし、  
そこまでクドクド言わなくてもいいかしら)

彼の態度にまで口を出すのは諦めて、  
今はただセックス勝負に集中することにした。



ほら、これでいい？

バックから好きなように突きたいという彼の要望に応えて、少し苦しいけどこんな体位ですることになった。初めての体位だから少し不利かもしれないけれど……！夫とのセックス経験がある私の方がこの人よりも上のはず。

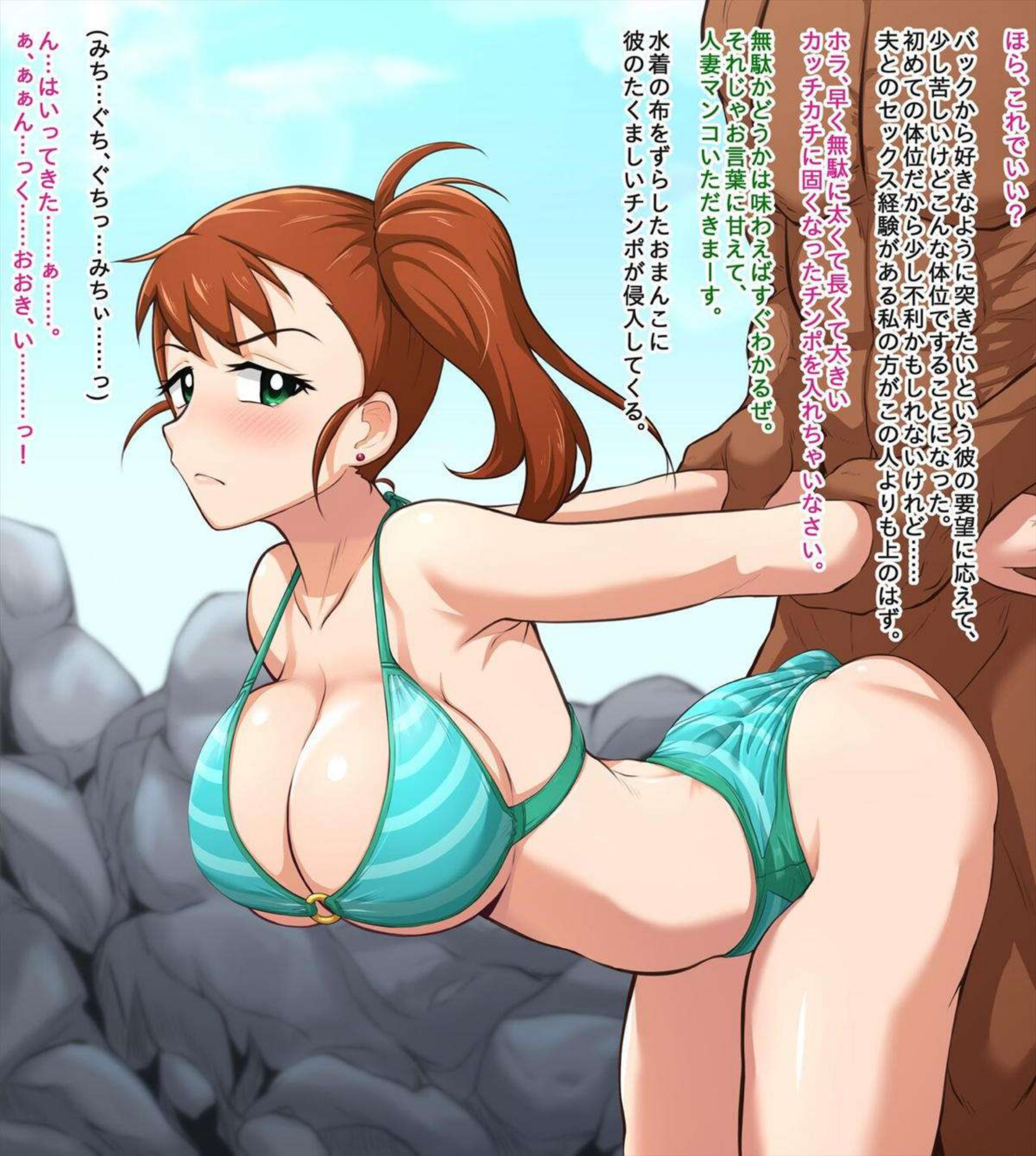
ホラ、早く無駄に太くて長くて大きいカッチカチに固くなったチンポを入れちゃいなさい。

無駄かどうかは味わえばすぐわかるぜ。それじゃお言葉に甘えて、人妻マンコいただきまーす。

水着の布をずらしたおまんこに彼のたくましいチンポが侵入してくる。

(みち……ぐち、ぐちっ……みちい……っ)

ん……はいつてきた……あ……あ、ああん……っく……おおき、い……っ！





お尻の形が変わるほど強く腰を押し付けられる。  
アソコの入口からお腹の奥深くまで圧迫感に支配されてしまった。

（こ、これはちよつと……想像以上……っ）

おほっ！ いい締まりのマンコ持つてるじゃん。  
これは気持ちよく出せそうだ。

膣の深さを確認するようにグリグリと奥に  
龟头を押し付けられる。それが終わると  
ゆるゆると腰が動き、前後にゆっくりと擦られる。  
体勢的に逃げることもできず、  
彼の好きなように出し入れされるしかなかった。

あっ、うう……はあ……はっ、はっ……あっ♡

俺のチンポはどう？  
えーっと……そういえば名前なんていうの？

ん、くうっ……あ、碧……よ。あ、あうっ♡

碧ね。で、どうなの？  
浮気チンポを啜えこんだ感想は。



浮気じゃなくて……勝負、でしょ……っ！  
う、くっ……♡ た、たいしたことない……わね……っ♡

グチツ……ヌチイ……グチユ……ヌチツ……♡  
ゆつくりとした腰の動きが続く。  
数センチの前後運動で、奥、入口、膣上、膣下を探るように刺激される。  
場所によっては、自分の意思とは関係なく  
体がビクンと反応してしまい、結合部からは  
早くもいやらしい水音が鳴り始めていた。

碧さん、結構弱いポイント多いね。  
これはいじめがいがあるマンコしてるわ。

なに、いつてるの……よ……♡ ん、んっ、ふっ、ふう……っ♡  
否定の声には甘い喘ぎ声が混ざってしまい、  
全く説得力がなかった。

（これ、本格的にピストンされちゃったら……私……）

そう考えると胸がざわつき、下腹部が切なくなる。  
このドキドキは勝負に負けるかもしれない焦りからで、  
決して激しく出し入れされるのを  
期待しているわけではない。

♡チッ♡

♡チッ♡

♡チッ♡

♡チッ♡



さてと。一応確認しとくけど、イツたら負けだからな？

わ、わかつてる…わよ。 んっ♡

私は一度でもイツたら負け。  
あなたチンポが勃たなくなったら負け。

いつ♡いまさら条件変更は許さないわよ？

きつともう射精しちやいそうなのね。  
そうしたらもう勃たなくなつて負けちゃうから、  
交渉しようつてわけね。

(私も、気持ちいい…けど、まだ大丈夫…  
このままいけば絶対に負けないわ)



（パンツッ、パンツッ、パンツッ、パンツッ）

ああっ♡あつ、や、あああつ♡♡♡ ちよ、つと…はうう♡♡♡  
いき、なり…そんな、はっ♡あつあつあつあつ♡♡♡ や、だめえ…♡♡♡

なんの予告もなく、激しいピストンがはじまり  
おまんこをかき混ぜられる。  
太いチンポがドチユドチユと突き入れられ、  
腰がビクビクと震えてしまう。  
激しいピストンで水着がずれ、  
露わになったおっぱいがおおきく揺れる。

だが、今はそんなことを気にする余裕はなかった。

はあん♡あつあん♡♡♡ やあ…♡♡♡ やめ…あつ♡あん♡♡♡  
だめ、だめだつて…そんな激しっ、のは、ダメえ♡♡♡

腕を強く引かれ、反るような体勢で為す術もなく  
たくましいチンポが激しく出し入れされる。  
十分に愛液が出たおまんこは  
その刺激を強い快感に変えて私に伝えてくる。

びくんっ♡

あゝんっ♡

あゝんっ♡

パンツッ  
パンツッ  
パンツッ  
パンツッ



うそ、うそっ…♡ あっ♡ああっ♡だめっ♡  
だめっだめえっ♡♡♡ くる、きちゃうっ♡♡♡  
だめ、だめだめっ♡♡♡ イッちゃ…あっあっ♡

イク、いくっ♡♡♡ イクイク、イク♡  
だめええええええっ♡♡♡♡♡♡♡

ビクビクビクッ!! ビクンッッ!!♡♡♡

さっきまでの優位が嘘のように、大きな喘ぎ声をあげながら  
あつけなくイカされてしまった。  
快感で下腹部がビクビクと波打ち、熱い呼吸が止められない。  
ガクガクと震える足を必死に抑え、絶頂で跳ねる腰を必死に抑える。

ビク  
ビク

びくんっ♡

ビク

(だ、だめっ…!!いい、イってない…♡♡  
私、は…まだっ♡イってないっ…♡♡  
そういうことにしないと…負けちゃう…っ♡♡♡)

びくんっ♡

びくんっ♡

ビク

ビク

ビク

残念だったね、碧さん。  
俺の勝ちだな。

っ…ふっ♡ふうっ♡  
な、何をいって、るの…？  
わたし、は…まだっ♡ イって、ないっ…♡

イクイクってでかい声で喘ぎながら  
思いつきり体のけぞらせてビクビク  
震えてたくせにそんな事言っちゃう？

(まなつ達のためにも…っ、  
ここで負けるわけにはいかないのよ…！)

さっきのは違う…っ、イって、ないわ…♡

ビク  
ビク

びくっ♡

ビク



んおっ♡♡

（パンツ、パンツ、パンツパンツ！）

再びピストンがはじまる。

下の膣壁をこするようちンポが出し入れされ

さつき以上の快感が生まれる。イったばかりの私のおまんこはすぐにキュンキュンと反応してしまった。

んっ、おっ♡んっ♡んっ♡おっ♡♡ほおっ♡♡

情けない喘ぎ声が漏れながらも必死に絶頂の波を抑える。

（あっあああっ、また…くる、くるっ、きちやうっ……♡♡）

その時、足が浮いてしまうほど強く子宮口のを突かれてしまった。

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡

んっ♡♡



（ブチーっ!!! ムルブルブルルッ!!! ムルルル!!!）

んんんんっ♡♡♡♡♡ ああっ♡  
イグツ♡♡♡♡♡ イクイクイクツ♡  
イグウウウウウウウウウ  
ううー♡♡♡♡♡

（ビクビクビクビクツッ!!!）

激しい射精により奥深くに  
熱い精液が叩きつけられると、  
それに合わせるようにカラダが勝手に  
絶頂することを許してしまった。  
チュウチュウと精液を吸い上げるように膣がうねり、  
夫以外の精液を子宮の中に迎え入れてしまう。

ビクビク

ビュッ  
ビュルルッ

びくっ♡

ビクッ

（そんなっ!!!♡  
中に出されてイっちゃう、なんて!!!♡♡）





今度こそイっただって認めるよな？

…っ、くう…♡ そう、ね。

私…あなたに中出しされてイっっちゃった…わ。でもっ！

あなたも射精して勃たなくなつたから引き分け、でしょ？

あ？ 何言ってるんだ？

えっ…？ うそ…でしょ？

射精が終わって小さくなるはずなのに…。膣内に入っている彼のチンポはまだ大きく固く、脈打っていた。

なんで…。

たった一回出したくらいで萎えるわけないだろーが。

もう勝負はついて格付けは終わったんだ。

この後はお互い何も考えず気持ちよくなるためのセックスをしようぜ。



そんなのっ……私、したくなんて——  
あっ♡あっ♡んんんんっ♡♡

私の言葉を遮るようにゆっくりとしたピストンが再開される。  
精液がグチュグチュと泡立ちながら卑猥な音をたてている。

いーからいーから。  
どうせ逃げられないんだし、勝負抜きで楽しんでじゃいなよ。  
ほら、この画面見て。

貞操観念だけゼロにしてやるからさあ。  
俺のチンポとそれ以外の全て、  
どっちが大事なのか確かめてみようぜ。

またスマホの変な画面を見せられる。  
そして——

既になんの役にも立っていない上の水着を脱がされてしまう。  
青空の下で全裸になってセックスをしている。  
岩場の向こうにはみんながいるというのに……。  
そんな状況を改めて確認させられて、  
ドキドキがより強くなってしまう。

あっ、やっ♡  
やあ……あっ♡あんっ♡ああっ♡  
あふっ♡ふあああっ♡

びくっ♡

（ああ……私、今はもう逆らえないんだ……♡  
この人の好きなようにおまんこを使われるしかないんだ……♡  
どうせ逃げられないなら、いっせ——）

びくっ♡

びくっ♡

びくっ♡



しばらくして。

ビュウーッ!!!ビュウーッ!!!  
ビュウーッ!!!

おっ♡ おおっ♡♡♡ おほおほおっ♡♡♡

何度も何度も、何度もイカされて  
意識がはつきりしない中、  
何度目かわからない中出しがはじまる。

あ、ううううう♡♡♡ きもひ、いいい……♡♡♡

ポーっとした頭で、  
感じたままの素直な気持ちを口に出す。

ふいっふいっ出した出した。  
この体位も飽きてきたし、  
そろそろやめとくかあ。

グポオオツ……)

んううううう♡♡♡

びくっ♡

ビュウー♡

びくっ♡

びくっ♡

ビュウーッ!!!  
ビュウーッ!!!  
ビュウーッ!!!  
ビュウーッ!!!  
ビュウーッ!!!

すっかりと挿入されているのが当たり前になっていたチンポが抜かれ、  
お腹の中の圧迫感が一気に無くなると、何故か寂しさを感じてしまった。

次はホテルに戻って2回戦だな。  
こんどは俺が上になって  
ペロチューしながらハメまくってやるよ。

こ、こんどこそ……かつんだからあ……♡♡

部屋でされてしまう行為を想像して下腹部が熱くなる。  
今までシタことのない  
気持ちのいい勝負ができる予感がした。

うっし！んじやさつさと移動するぞ。  
ほら、さつさと水着つけて行くぞ！

わ、わかったわよ……っ♡

いろいろな体液でドロドロな事も気にせず  
彼の言う通りに急いで水着をつけなおし、  
岩場を後にした。



あつ、お母さんここにいたんだ！  
ずいぶん戻ってくるのが遅いから呼びに来たんだよ？

ああ…まなつ。わざわざ来てくれたの？  
ごめんなさい、心配かけちゃったわね。

……この男の人は？

ちよつと悪さをしていたから注意をしてあげたの。  
それでこの後ももう少しこの人とやらなきやいけない用事ができちゃった♡  
お母さんがもし勝てたらちゃんとお家で待っていてね。  
何も心配しないでお父さんとお家で待っていてね。

(勝てたら…?)



まなつちゃん、だっけ？  
ボクはキミのお母さん！碧さんにちよつと迷惑をかけてしまったから、  
これからお詫びをたつぷりしてあげなきゃいけないんだ。  
お父さんにもよろしく言っておいてくれないか？

そうなの…。勝つまでは何度でもシなくちゃダメなのよ♡  
だからまなつ……お父さんのこと、お願いね。  
お友達とも仲良くするのよ？

お母さんはいつも通りの調子で話をしていた。  
でもなんだか雰囲気がいいつもと違って変な感じがした。  
それにちよつと男の人と近づきすぎな気がするけど、気にしすぎかな？

……うん、わかった！早く帰ってきてね。

お母さんは笑顔で手を振り、二人寄り添って海岸から離れていった。

お父さんが心配そうにしていたから不安だったけど、  
もうお母さんも怒ってなくて仲良しになったみたい。  
しばらく帰れないって言ってたけど……  
晩御飯までには帰ってくるよね？

まなつが父親の元へと戻るその後ろで、  
2人が乗った車はホテルに向かい遠ざかっていくのだった。

セックス勝負の2回戦をおこなうために彼が滞在しているホテルの部屋へとやってきた。今度こそこの男との勝負に勝って、娘たちを守ってみせる。

「……それにしても車の中、すっごい臭いになってたわね」

移動中の車内は、岩場でのセックスの時に私の身体のいろんな場所に付着してしまった汁や液体の臭いですっごいことになっていた。

車の座席にも溢れてきた精液が付いてしまったし……。行為の直後で頭がまわつていなかっただとはいえず、あんな状態でまなつに会ったのは失敗だったかもしれない。

「この男とセックスをしていたなんて、気づかれてないわよね？ まなつはまだそういう知識は無い……わよね？」



心配する私をよそに、彼の方はいきいきとしていた。

よーし、それじゃ早速やるか。こんどは心おきなく――

まっつて。その前に二度、シャワーを浴びてもいい？

シャワー？そんなもん必要ないだろ。どうせすぐにぐちゃぐちゃに汚れるんだぞ。

っ…そつ、そうだとしても！一旦キレイにしておきたいものなのよ！

なんだよそりゃ。よくわからねーな。

そんなに時間はかからないから、ちよつと待ってて！

不満そうな男を無視して浴室のドアを閉めた。





ふう……ああ、気持ちいい。

汗や精液で汚れた体と水着をシャワーで洗い流す。

セックスの熱が残る体がリフレッシュされている感覚だった。

ここはしっかり洗っておかないと……。

ガニ股になり、アソコを集中的に洗う。

中に出された精液を掻きだすために指を入れると、ヌルヌルとした白濁液がまだ奥から溢れてきた。

↑……こんなにいっぱい、濃いのを出されちゃったのよね

指先でネバネバとした精液を弄びながら、つい思い返してしまう。

夫ともそれなりにセックスの経験があり、勝つ自信はあったのに

途中からは気持ちよくて何が何だか分からなくされてしまった。あんなめっちゃくちやな体勢で突かれていたのに何度もイカされて、膣内出しもされて……。

弱気になっちゃダメ……!

もうあの男のチンポのサイズだってわかったし、今度こそ大丈夫。いくら固くて太いので、おなかの奥までズンズン突かれたって、今度こそ……!

(大丈夫……よね?)

そう自分に問いかけながら、なぜか下腹部が熱くなっっていく感覚があった。その時――

ういーっす。碧さん遅いから来ちゃったよー。

えっ!? ちょっと…!!

全裸になった男が浴室に乱入してきた。しかも

なっ、なんでもうそんなに大きくして…っ!!

ガ  
シ  
ッ

ガ  
シ  
ッ

＝  
＝

いやー、碧さんのマンコの感触思い出してたら我慢できなくなっちゃってさ。  
もう十分にシャワー浴びたでしょ? 2回戦はじめちゃおうよ。

もう少しだから、出るまで待っ…んんんんんっ!!

私のすぐ後ろに近寄った男は、腰を掴むと遠慮なしにチンポを挿入してきた。大きなモノが一気に奥まで侵入して、赤ちゃんの部屋をノックしてくる。

（う、くうっ…♡ず、ずるい…っ、こんな…いきなりっ…♡）

心の準備ができないまま、ゴリゴリと奥を擦られる。

ズググ

ズググ…

ひん、ひん、ひん

中に残った精液のせいでヌルヌルとスムーズにチンポを迎え入れた私のおまんこは早くも先ほどの行為を思い出したかのような快感を生み出しはじめていた。



あっあっ♡あっあんっ♡あっ、あっ、やあっ♡

強い力で腰を掴まれ、リズムカルに腰を叩きつけられる。セックス勝負といつても、この状況で私にできることは壁に手をつき必死に快感を耐え、イかないようにすることだけだった。

(気持ちよくない、気持ちよくないっ…気持ちよくなんて…っ♡)

あんっ♡

あっ♡ やあっ♡

膣口から子宮口までを擦り上げるような長いストロークのピストンが続き、早くも結合部からはグチュグチュと卑猥な音がなりはじめていた。シャワーをした意味は既に無くなってしまっていた。

パニッ

パニッ

パニッ

ニッ

ニッ

ニッ

碧さんの人妻マンコ、やっぱりきもちいいわ。  
俺のチンポはどう？気持ちいい？

きつ、きもちっ♡よく、なんてっ♡

ははっ、そっかー。じゃあコッコ、どう？

っっっ！♡っっっ……っっっ！！♡♡♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ピストンの角度が変わり、チンポで擦られる部分が変わるだけで、  
私の息はつまり、否定の声が出せなくなりました。  
返事のかわりに足腰をガクガクと震わせる私の姿はすべてを物語っていた。

パッ♡

パッ♡

パッ♡

パッ♡

グッ♡

グッ♡

ガクガク♡

グッ♡

ほら、もっと腰おとしてガニ股になつて...よーしいい子だ。

やっ♡やああっ♡そこ、はっ...♡擦らないでえっ♡

情けない体勢で、男の好きなようにおまんこに抜き挿しされる。  
先ほどよりもお腹側の壁を強く擦るようなピストンになると、  
生まれる快感の質も強さも変わり、自然と喘ぎ声が大きくなってしまう。

碧さんってポイントがいつぱいあつて中イキの素質たつぷりだよな。  
開発したらまだまだ気持ちよくなれるスケベなマンコしてるよ。

んっんっ♡ふっ、ふうっ、ふうっ♡あ、あっあっあっ！♡  
ダメ、そこ...だめ、ダメっ♡や、あっあっ、やあああっ♡♡

パニッ  
ハッ  
ハッ

ハッ  
ハッ  
ハッ



こんな雑魚マンコでセックス勝負受けちゃうなんてダメだ、よっ!と。

んおっ!!♡♡♡ひんいいいつ♡♡♡ひあ、あああああつ♡♡♡

子宮口からは少しズレたポイントを強く突かれる。  
その途端、下腹部が無意識に波打ち、強い快楽が頭を支配する。

あ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

ぬぢ♡♡

ぢぢ♡♡

う、そ…。こんな…っ♡だ、ダメええええええええええっ♡♡♡

ビビッ♡

ハッ♡

ハッ♡

パッ♡

ハッ♡







碧さんセックス勝負に自信あったみたいけどさ、経験足りてないんじゃない？  
旦那とも子作り以外でシてなかったんじゃないの？

そんなこと…ない…っ！大洋さんとは、今までいっぱい

ふーん、そうなの？その割には固いつていうか、不満そうなマンコしてるけどね。  
やり足りてないから浮気チンポですぐイっちゃうんじゃないの？

そんなわけっ…！

確かに仕事の都合で遠距離に住んでるけれど…  
そんなことは関係ない、はず。それに昨晚だってちゃんと…！

あっ！♡ちよつと、まつ、て…え♡まだ動かないで…あんっ♡

もう勝負はついたらんだし、好きにやらせてもらうぜ。

ピワン…♡

ドロ…

んっ…

フリフリ…

んっ…  
んっ…



パンツパンツパンツパンツ!!

あああああつ♡♡♡やめ、ああ♡あつあつ♡  
だめっ♡そんなつよく...あつ♡♡はあ♡♡やあん♡

足が地面から浮き上がるほど強く、斜め下から突き上げられる。  
体重がオマンコの奥、彼のチンポの先にかかり強く圧迫される。  
その度に抑えようのない熱い吐息が喉から吐き出されてしまう。

「こんな、身勝手なセックスなのに...  
好き勝手アソコを使われているだけなのに...っ♡」

気持ちよすぎて足が震え、体を支えられなくなる。  
そして余計に突き上げられる子宮を押し上げられる力が強くなってしまふ。  
彼の力強い上下のピストンに合わせて、私の身体は強い快感を生み出しながら  
ガクガクと揺れるままになっていた。

パンツ  
パンツ  
パンツ

パンツ  
パンツ  
パンツ



オラッ！2発目だっ！

(ビュルルルルルルッ!!)

あひいつー!♡♡♡

ガニ股で膣の奥深くに熱い精液が流し込まれる。  
何度目かの絶頂を迎えると同時に私は――

おいおい、そんなに気持ちよかったのか？  
このままじゃ一生俺に勝てないぜ？

(ジャアアアアアアッ)

や……ああ……♡♡

熱い液体が股間から噴き出し、水着と足を汚していく。

ほんっと感じやすくて具合のいいマンコをもった最高の女だよ、碧は。

耳元で彼に囁かれたその言葉を、私はまったく否定できなかった。

ガグッ……

ドロッ

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ

……

が

ガッガッ

ふん

ギョ

ビュッ  
ビュッ  
ビュッ

ビュッ

ふん

ふん

ふん

ふん

3回戦目は明日に持ち越しとなった。  
それまでは時間ができてしまったが――

……勝つための方法を教える？

そう。碧さんがあまりにも弱すぎてかわいそうだから、俺なりの気遣いだよ。  
一方的すぎる勝負つてのは俺も面白くないからな。  
弱点っていうか、俺好みの興奮するシチュエーションを教えてやるよ。

(勝負をする相手にアドバイスなんて……ずいぶん余裕じゃない)



とはいえ、過去2回とも完敗と言える結果。  
このまま続けても勝てる見込みは少なそうだ。  
くやししいけれど、ここは相手の弱みを把握して攻めるしかない。

じゃああなたの弱点、ありがたく教えてもらおうかしら。  
明日それで負けても文句は言わないでよね。

当然。それじゃあベッドでじっくり教えるから、仰向けになつて。  
よし、それで足を開いて：うんうん、良い感じだ。次は――

（明日のためにも、しっかりと研究しないと……！）

次こそはという強い意気込みを持ち、彼の弱点を突くための勉強がはじまった。  
彼の指示するまま、好みだというシチュエーションのエッチの準備を進めていった。



えっ、と…これがあなたの弱点になる  
ドキドキ…  
シチュエーション…なの？

ああ。今だつてめちゃくちゃドキドキしてる。

（か、顔が近い……っ！  
わっ、もうアソコに固いのが…っ）

むっ  
♡

お互いの息がかかるほどの距離で密着し、  
まっすぐに見つめられる。  
あまりの恥ずかしさに視線がさまよつてしまう。

今日会つたばかりの、しかも  
悪いことをしていた人なのに…  
両足を自分で払げて、挿入されるのを  
完全に受け入れている感じで…

ガシッ

(夫以外にこんな体勢…わたしっしたら、ひく…ん…  
なんてはしたくないことを…っ)

ほら、回。キスしようぜ。

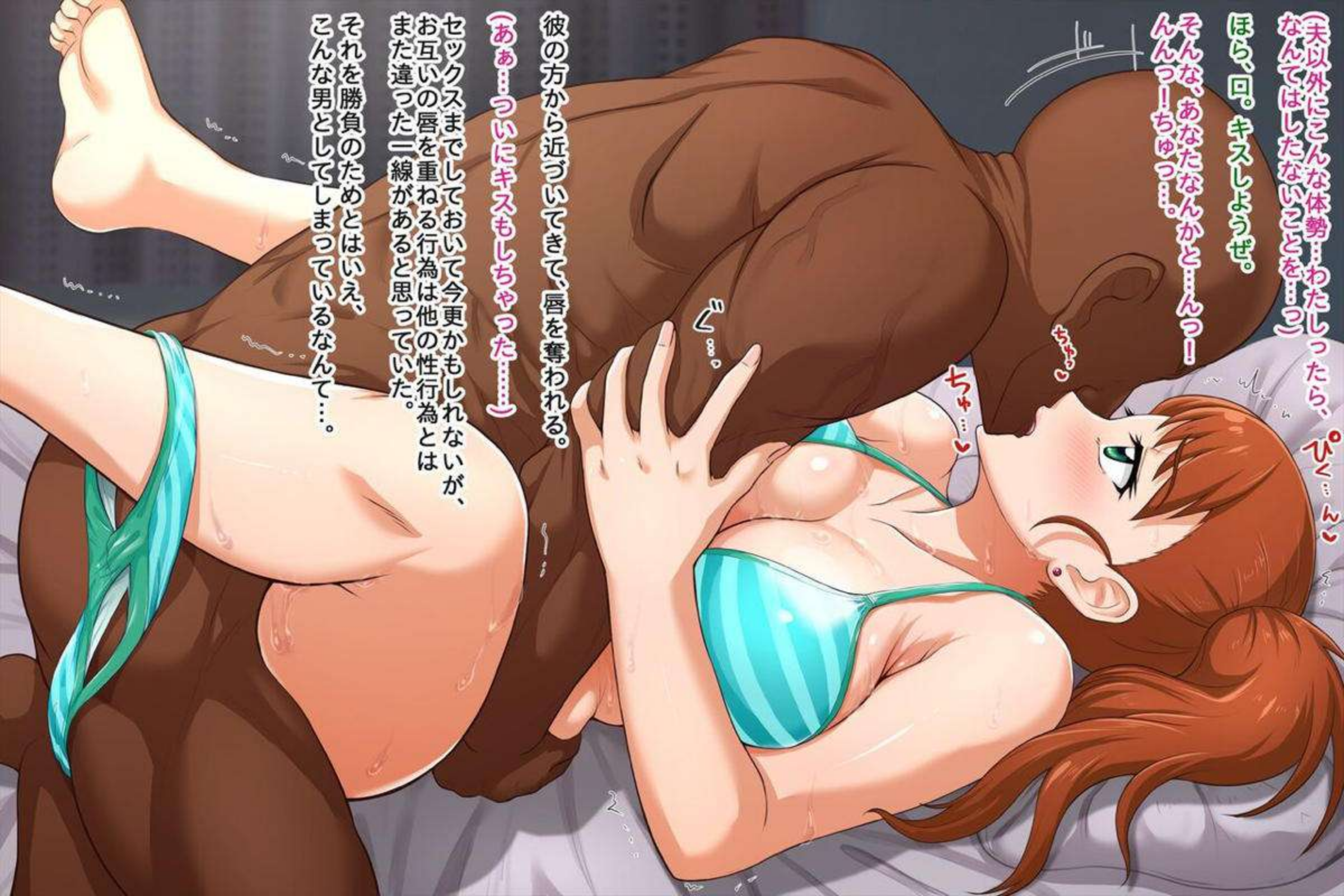
そんな、あなたなんかと…んっ！  
んんっ！ちゅっ…

彼の方から近づいてきて、唇を奪われる。

(ああ…ついにキスもしちゃった…)

セックスまでしておいて今更かもしれないが、  
お互いの唇を重ねる行為は他の性行為とは  
また違った一線があると思っていた。

それを勝負のためとはいえ、  
こんな男としてしまっているなんて…。



ちゅ、ちゅっ……。チュ……。

いいね、ピンピンになって我慢できねえ。  
そろそろやるぞ。

あっ！

うううっ……チュ、チュッ……プチュ。  
あっ！また、はいつて！♡

ついでにむようなキスをしながら、  
ゆっくりと彼のチンポが侵入してくる。

今までと違うスローな動きが逆に  
挿入されているという事を意識させる。

ん……♡♡♡……

ん……♡♡♡……





はあ、んっ♡はあ、あああっ♡  
ん、ちゅっちゅっ♡

密着感を失わないような小刻みな  
ピストンがはじまり、吐息が弾む。  
甘い声を漏らす私の口を、  
彼はすぐに口で塞いでくる。

キスしっぱなしでお互いに  
鼻息を荒くしながらの  
セックスに脳が痺れる。

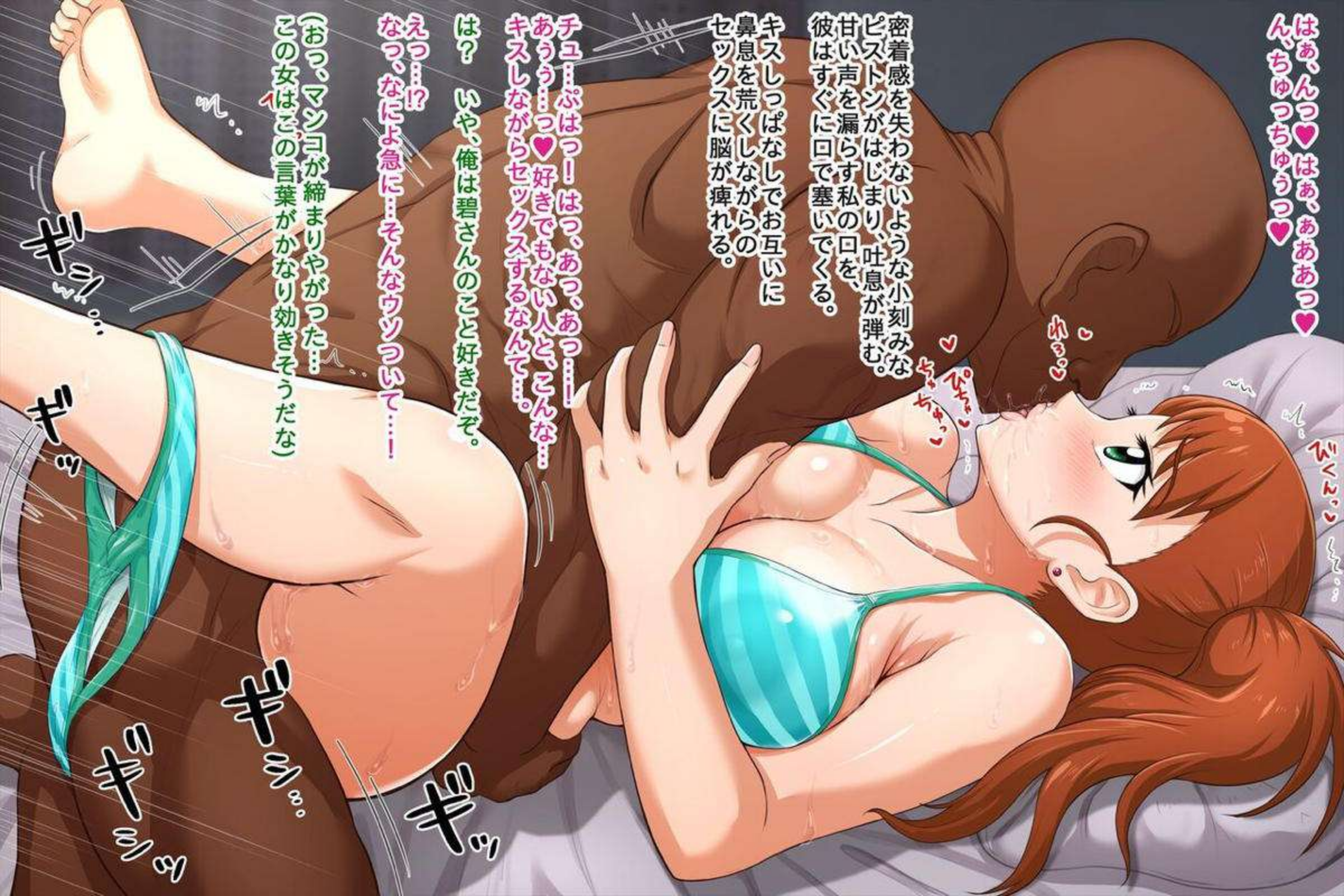
チユ…ぶはっ！はっ、あっ、あっ…！  
あうう…っ♡好きでもない人と、こんな…  
キスしながらセックスするなんて…。

は？ いや、俺は碧さんのこと好きだぞ。

えっ…！  
なっ、なによ急に…そんなウソついて…！

（おっ、マンコが締めりやがった…  
この女はこの言葉がかなり効きそうだな）

ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…



いや、マジで好きだ。  
そのために近づいたようなものだからな。  
俺、碧のこと一目見たときから  
好きなんだ。大好きだ。  
俺だけのものにしたいくらい  
愛してるんだ。

ちよ、ちよつと…っ！  
ん…ちゅ…ん、ふっ…ちゅぶ…。

はあっ…♡

そ、そんなこと言いながら

動かないで…んちゅ♡

しほ…ちゅぶ、くちゅ…ん♡

あふっ…き、キスもだめっ…♡

（おほっ、チンポをキュウキュウ  
締め付けてくるぜ…こりゃいいや。  
ほんと、この女を偶然拾えてラッキーだったな。）

目がトロシとしてるぜ。

まんざらでもない感じかな？嬉しいよ。

ああ、碧、大好きだ、愛してる。嘘じゃないんだ。

（性処理にぴったりのエロい女として、な）

ん…♡  
ん…♡  
ん…♡

ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…

や、やめてよ、そんな言葉… 私達勝負を…

ん、ちゅ…ちゅ♡  
ぺちゅ…ちゅ…ちゅ♡

俺は好きな女とのラブラブなセックスだと気持ちよくて早漏になっちゃうんだって。演技でいいから好きっていつてくれよ。そうすれば明日は勝てるかもしれないぜ？

す、好きだなんてそんな…私、結婚して夫がいるんだから…！

フリでいいんだって。フリで。

本気の言葉は望まない。

俺って不器用だから、こういう時しか本音を言っただけだから、ごめん。

なあ、碧。

俺のこと好きって言うてくれよ。好きになった女性の口から、言われたいんだよ。

っ…！ ばっ、バカじゃないの…っ！

でも、言えば本当に勝てると思ったら試してみても…いえ、でも…あううう…演技だとしても、わたしは…

んっ♡

ギョッ…

ギョッ

ギョッ…

ギョッ

ギョッ

.....よ.....す、好き.....よ。

え？もつとはつきり言つてくれよ。

わ、私も.....あなたのこと、好き.....よ。  
好き.....なの。

(ははっ！本当に言いやがった！)

(ああああああ.....!!  
演技とはいえ、すつごく恥ずかしい.....!!  
変なドキドキが止まらない.....!!)

本心ではないとはいえ、  
特別な言葉を回に出してしまった。

顔は熱くなり、アソコが  
キコンキコンと切なくなってしまう。

嬉しいよ、碧っ！俺も好きだっ！大好きだぞっ！

あつあつ！♡だめえ♡  
ダメだつたら.....そんな急につ♡激しくっ♡  
んっ、チュッ♡チュウウツ♡

私の言葉に大喜びで腰を激しく動かしはじめる彼。  
そして.....

ん.....♡♡♡

ギョッ.....

ギョッ.....

ギョッ.....

ギョッ.....

ギョッ.....

ん.....♡♡♡

カ.....♡♡♡



す…好きよ。大好き。  
もつとあなたのチンポで…オマンコ突いて…  
き…キスもいっぱいいしながらっ  
…いっぱい愛して♡

ええつと、あと…んんんっ♡  
ちゅ、レロツ♡クチュっ、ペロツ♡

ちゅ♡

レロッ♡

言葉を遮るように彼が私の唇に  
吸い付いてくると、  
思いつきり舌を絡める  
ディーブなキスをしてきた。

ねつとりとした熱いキスをしながら  
何度も「好きだ」と連呼され、その声の  
振動が直接私の頭を揺さぶってきた。

（うう…こっ、こう何度も好きって  
言われると…なんだが変な気分…）

ん、レロッ…わ、わらひも…好き…♡  
好き、よ…♡ふあ…あっ♡  
チュッ…ペロ、レロレロッ…  
んんっ、しゅき…♡はう…ん、ちゅ♡

お互い、喘ぎ声以外には好きとしか  
言わない状態でのセックス。  
密着した筋肉質な体に強く腰を掴まれ、  
舌を絡めながらチンポで奥まで突かれる。

だんだん頭がポーンとしてきて、  
自分で何をやってしまっているのかわからなくなっ

ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…  
ギョッ…

ガク…  
ガク…  
ガク…  
ガク…  
ガク…  
ガク…

カ…♡

カ…♡

ガク…

ガク…

ガク…

碧、好きだ、好き好き好き…ううっ！  
碧っ中に出すぞ碧っ！  
妊娠してくれっ！  
俺の子を産んでくれっ！！

んんっ！  
（そこまで流石に…  
でも…っ♡）

う、うんっ♡  
早く中にちようだいっ♡  
私のこと妊娠させてっ♡  
大好きなあなたの精液で  
私の子宮いっぱいにしてっ♡

はあっ、はあっ！  
おおおおおおおっ！！  
んちゅ…ぶはあっ♡  
好き、好き好き好きっ…  
すきいいいいいい♡

（ビュクビュクッピュルルル…っ！！  
ビュクッ！ビュクッ！）

（あっ♡ダメ…っ！  
私も…っ♡）  
愛しあう夫婦の子作りのような言葉を  
交わしながら、二人そろっての絶頂。

私の膈中でチンポがビクンビクンと脈動し、  
たっぷりと中出しをされている最中も  
見つめあいながら舌を絡ませ続けてしまった。

ビュルルッ♡





最後は私も悪乗りしてしまつて一緒にイッてしまつたけれど……でも！彼は2回も射精していたし、早かった。

（ああいうセックス、本当に好きなんだ。それに私の事も……？）

ようやく勝てる見込みが出てきた気がする。

（次の勝負、今日以上に好きって言いながらのラブラブセックスをしてあげれば勝てるかも……！）



そして翌日、自信をもって迎えた3回戦目。

今回はハンデとして先に口で出させてやるんだから、気合入れてしゃぶってくれよ。

ふあい…♡あなたのチンポ、いっぱいいきもひよくしてあげる…  
ん、ちゅ…じゅ、ぷちゅ、ちゅるっ♡♡

むち、♡

じゅ、い♡

ちゅ、ぶ♡

きゅ♡

今回の勝負では彼の弱点のひとつ、ノーハンドフェラで先に射精させるハンデを  
もらうことができた。このチャンスに逃がすまいと私は彼のチンポにしゃぶりついていた。

「1回といわず2回、3回と射精させれば、このまま勝つことだって…！」

おっ、舌が絡まって…！碧、うまいじゃねえか…おっ！  
いいぞ、その調子で吸い付いて…おぶっ。

ちゅぽっ♡♡じゅぽ、じゅぽっ♡♡ちゅぶ、ちゅぶっ♡♡

回をすぼめて吸い付き、回内の粘膜で竿全体を丁寧にしごく。それと同時に舌を強く裏筋に押し付けて頭を前後させる。回全体を使って彼のチンポを気持ちよくさせるために動く。

くう…飲み込みが早いな、もうこんなエロいフェラができるように…。いいぞ碧、どんどん俺好みの女に…くっ！

ふふっ、気持ちよさそうな声だしちゃって…♡

くほっ♡

ちゅぽ♡

じゅぽ…♡

じゅぽ♡  
くほっ♡

フェラチオをしている時は私が優位に立てることがわかってきた。彼に教えられた通りにお口で奉仕をすることで、自分がいくことなく射精させることができる。勝利により近づけるのだ。

くそっ、ヤバイ、もう出ちまいそうだ…っ！

んっ、んぽっ♡らひで、くらひやい…♡

わらひのくちに…っぱいザーメンらひでっ♡

んぐっ、んんんんっー♡♡♡

（やったわ♡こんなに勢いよく射精しちゃって…♡  
続けてもう一回…♡）

ズ  
ズ  
ズ  
ズ

ビュッ♡  
ビュッ♡  
ビュッ♡

グ  
グ  
グ  
グ

んっ♡  
んっ♡

ぷっ♡  
ぷっ♡  
ぷっ♡

んっ♡  
んっ♡

んぐっ♡…んぐん…♡んぐ…んっ♡んぐ♡

フエラを続けるのに邪魔になる精液を飲み込んでいく。  
生臭い精液の臭いと、喉にからみつく濃さのせいで軽くむせてしまっが  
なんとか回のの中の精液を胃の中へと収めることができた。

んっ♡

んふっ♡チュウ…じゅる、じゅるっ♡  
ちゅっ、じゅぶ、じゅぽっ♡

おっ、なんだなんだ、ずいぶん熱心じゃねーか。  
俺のチンポをしゃぶるの、そんなに気に入ったか？

(何とでも言いなさい、このまま何度も射精させてあげれば私の勝ちよ！)

ぐほっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ…

じゅっ♡  
ぐほっ♡

んっんっんっ♡ジュルジュルジュルっ♡♡  
ええっ♡あなたのチンポ好きっ♡  
気持ちよくしてくるチンポ大好きなのっ♡  
じゅっじゅぽ、グポッグポッジュポッ♡♡♡



そっぴーはらへんー

出すぞっ！碧っ！全部飲み込めよっ！！

んぶ、んんんんんっ♡♡♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ビュッ♡

ぶっ♡

びゅっ♡

びゅっ♡

びゅっ♡

びゅん。

言われるまでもなくビュルビュルと喉奥にぶつけられる精液を飲み下す。頬をすぼめて強く吸い付き、尿道に残る精液も残さず吸い出す。

これで3回目…ふふっ、これなら今回こそ私が勝てるわ！♡

さて、じゃあこのくらいでハンデも十分だろ？  
マンコ使うからケツ向ける。

ちよつと待って！

今日はバックじゃなくて昨日教えてもらった通り、  
対面でのラブラブベロキスセックスをしてみよう！  
それで勝負を決めましょう！

……マジ本気か……？

本当にラブラブベロキスセックスでいいのか？

望むところだわ！

昨日よりももっと甘い言葉を言っただけ。  
興奮しすぎて倒れないように気を付けることね！

そうか……わかった。  
そりゃ楽しみだ。

（うろたえてるようね。弱点なんて教えるからよ！）



おっ♡ひい♡ひい♡ひい♡ひい♡イクッ♡  
イクイクイクグググウウウウウッ!!♡  
またイクっちゃううううっ!!♡  
もうオマンコ♡  
許してえええええ♡♡♡

何言ってるんだ  
まだ一発しか出してねーよ。  
オラ、舌ちゃんと絡めろよ。

あゝ、碧の雑魚マッコ  
マジで好き。大好き。  
碧は俺のチンポ、どーよ?

すっ好きっ♡好きですっ♡  
あっ♡んんっ♡チュッ♡べロオッ♡  
大好きだからあっ♡  
おまんこダメえっ♡  
もう許してえええええっ♡

好きだったら気絶するまでイかせてやるよっ!  
オラオラオラオラオラッ!!

おっ!♡おっ!!♡♡♡ あおおおっ♡  
チンポ♡チンポがあっ♡  
チンポ♡お♡お♡お♡  
おっおっおっ♡♡♡ ンおおおおっ♡

キキキキキキキキキキキキキキキキ  
キキキキキキキキキキキキキキキキ

ガキッ...♡  
エロ...♡

ちゅっ♡

カッ...♡

カッ...♡

キキキキキキキキキキキキキキキキ

（アムニー……ツルルルル……ツッ！！）

ピクピクピクピクピクツッ！！♡♡♡

ふうう、さーて  
まだまだ……ん？

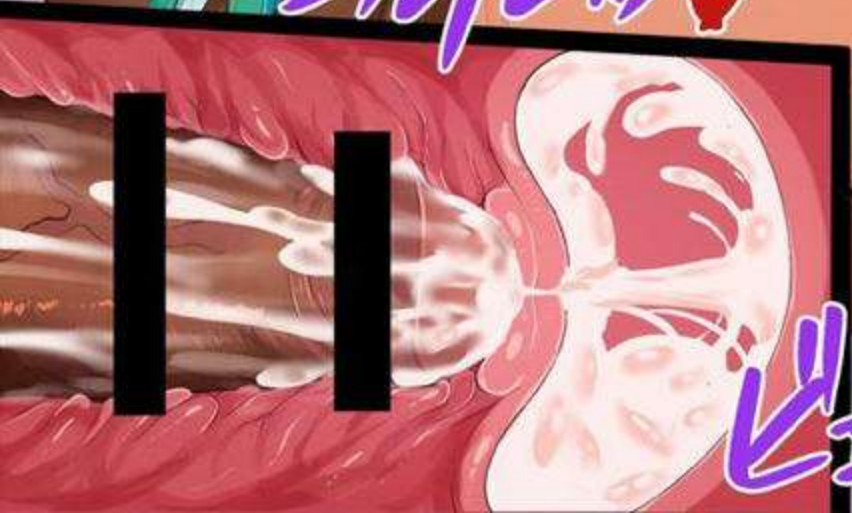
ああ……ひっ♡♡  
あ……はあ♡♡

なんだよ、言ったそばから  
気を失ったのか？  
チツ、もう何発か  
出しときたかったが……やめとくか。

まったく……チンポしゃぶってる時からマンコを  
びつちよびちよに濡らしてっからだよ。  
チンポぶち込んだ途端にイキやがったからな。

ま、気が強いくせにチヨロマンコな  
ところもかわいいいけどな。  
まだまだ飽きずに楽しめそうだよ、碧は。

ビュルルルッ♡



ビュルルッ♡



今日は彼の旅行最終日。この勝負で負けたら彼の家まで着いていかななくてはならない。そうになったら家に帰る日がまた遅くなってしまうし、きつと今まで以上にエッチなことをされてしまう。絶対に負けるわけにはいかない……!!

（そうよ……だからこそ恥ずかしいけどこんな格好をしてるんだから!!）

仕事柄できないマニキュアやペディキュアも薄く塗った。

セックスのための気合の入った姿で彼が来るのをベッドに腰かけて待つ。

（それにしても……着なれないものをつけているせいか……ドキドキしちゃうわね）

自分の姿を改めて眺めると、男を誘惑するためのデザインに恥ずかしさがこみ上げる。薄布の感触、下着の紐がキュッと食い込む感触をより鮮明に感じて、更に心臓の鼓動が早くなる。

私は自覚のないうちに太ももを擦り合わせ、体を火照らせていた。

よし、今日もめちやくちや……おつ、碧。その恰好…。

ふふっ、どう？ 今日こそは絶対に勝って見せるわよ♡

ようやく現れた彼に、自信満々で自分の姿を見せつける。  
アダルトグッズが置いてある店で買ってきたばかりの  
エッチな下着を着た自分を。

どう？ あなたこういう下着に弱いんでしょ？  
今日は絶対に負けないわよ！！♡

私は以前、彼からエッチな下着を着た女性に弱いという事を聞き出していた。  
そこでこの大事な勝負のために今まで買ったことがないような  
透け透けのエッチな下着を買ってきたのだ。

おお、確かにイイな。  
そういうの着たこと無い、絶対に着ないって言った割には  
頑張ってるじゃねーか。

そういう彼の股間はパンツ越しでわかるほどみるみる固くなり、  
あっという間に見慣れたデカチンへと変貌した。

(普通の服が無くて水着姿で買いに行くのはとても恥ずかしかったけど  
その甲斐はあったみたいね！)

うふふっ♡それじゃあ早く勝負を始めましょうか♡  
当然、今日もハンデとして最初にフェラチオをさせてもらえるのよね？  
今日はこのエッチな姿で、そのおっきなおチンポを  
ふやけるくらいしゃぶってあげるわよ♡  
お口だけでもう勃たなくなるまで搾り取ってあげるんだから♡  
ホラ、早くパンツ脱いで啜えさせて♡

おいおい、そんながつつくなくなつて...あゝあゝ、もうしゃぶりはじめやがった。

ふっ♡♡ふっ♡♡  
んっ♡♡んぶっ♡♡ちゅっ♡♡レロレロっ♡♡

(彼が興奮しているうちに  
袋の中の精液ぜんぶ吸いつくしてみせるわっ♡)

ぐほっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ...

ぐほっ♡  
ぐほっ♡

キス♡

んっ♡♡グポッグポッ♡♡  
グポッ♡♡グポッ♡♡

数日前とは比べ物にならないほど巧みで熱のこもったフェラで彼のチンポを刺激する。  
涎でたっぷりと水気を含ませジユポジユポと吸い付くと、竿がビクビクと反応する。  
舌を亀頭や裏筋にグネグネと絡ませ、鈴回をツンツンすると、腰が引けるので逃がさず追いかける。

ヂュウウウウウウウウウウ♡♡♡

うっ、くそっ！も、もう出ちまうっ！

（ジュルルル〜ツ〜ジュルル〜）

ジュルル♡  
ジュルル♡

んんっ！♡んっ、んっ、んく…っ♡  
んんっ…っ！発目♡  
んんっ…っ！発目♡

喉奥に勢いよく吐き出された精液を慣れた調子で飲み下す。

前戯が短かったせいかな、それほど多くは無い精液を難なく処理してフェラを続ける。

今日は1発目まで大分早いわね。これも下着の効果かしら？

でもこの人は1発なんかじゃ全然終わらないんだから、もつとシないと…♡



へへ、碧もわかかってきたじゃないか。  
俺に勝ちたかつたらまだまだしゃぶらないとなあ。

あ……ん♡んふっ♡

頭を撫でながら褒められると、何故か気恥ずかしい気持ちになる。  
こんな事を、こんな男に褒められたって嬉しくなんかないはずなのに……

イクホ♡  
イクホ♡

んほ♡  
んほ♡

ふっ、ふうっ♡んちゅ、んぼっ♡  
チュッ、チュッ♡チュポ、チュポ、チュポッ♡

（こんなスケベな下着をつけて、こんなに卑猥なフェラチオをしてるんだから……  
耐えられないはずよ。  
そうよ、夫以外のチンポを丁寧にしゃぶって、精液いっぱい飲まされて、  
こんなに……わたしっつたらなんて……）

んほ……

んほ……

キリン♡

キリン♡



ん？碧？

んふーっ♡ふっふっ、ん、んんっ♡はっはあっ♡んん、ヂュプツ♡  
(ごいつ…しゃぶりながらオナっつてやがる)

意識してか無意識か、碧は空いた手を股間に添え、  
割れ目周辺をなぞりはじめていた。

トロンとした顔でチンポをしゃぶりながら、  
おまんこをいじる手もどんどん激しさを増して行く。

ああっ、はやくっ♡はやく出してっ♡精液っ♡  
くっさらいドロドロの精液私のお口におもいつきり出してよおっ…♡

上と下、2つの淫らな水音をたてながら碧は夢中になって奉仕を続ける。



（ああっ♡嘘、なんでこんな気持ちよくなってるの...♡  
わたし、なんでっ♡チンポしやぶってるだけなのにつ♡  
負けたらまた何度もイカされながら中出しされちゃうのにつ♡

グチュグチュグチュッ！♡グチュグチュグチュッ！♡

フェラと同調して自分のマンコをいじる手の動きも激しくなってしまう。  
そして—

ビュッ♡  
ビュッ♡

ビュッ♡  
ビュッ♡

ビュ——ッ♡ビュクビュクビュクッ♡ブビュルルッ！！  
びくん...

んんっ♡♡んんんんんんんんんんんんっ！！♡♡♡♡♡

ピクピクピクッ！♡プシヤアアアアアアッ！！♡♡♡♡♡

ぶる...

フッ♡  
フッ♡

フッ♡  
フッ♡

ブッ♡  
ニャ♡  
アアア♡

ガッ♡  
ガッ♡

ビュッ♡



2度目の射精を回の中で受け止めると同時に、自分の指を深く挿入して絶頂してしまった。啜えているチンポがマンコに入れられるのを想像しながら…。それは自分でいじっているとは思えないほど興奮し気持ちよくなれた最高のオナニーだった。

「イっちゃダメなのに、イっちゃった……でも、これでああ、わたし……なんて……でも、これで……」  
なんだよ、今日はいつもより粘ると思ったたらまさか、なあ。とんでもない淫乱女になつたな、碧は。

「そんなこと、ないっ♡今イっちゃつたのは、何かの間違いで……♡」

「じゃあ早くマンコをいじる手を止めるよ。つたく……。おら来いっ！自分でオナつて勝手に勝負を捨てた罰として、これから明日のチエツクアウトまでハメまくってやる！」

「あつ♡そんなの……♡だめ、おかしくなつちゃうからあだめえ♡や、やめてくださいいいっ♡♡♡」

「がっ♡」

「がっ♡」

「がっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「キーン♡」

「びっ♡あ♡」

「ブルブル♡」

——そのあとは、声が枯れるほど大きく汚い喘ぎ声をあげながら何度も何度も何度も、彼のたくましいチンポでイカされる罰を受けてしまいました。

彼の弱点である恋人のようなラブラブセックスをしているのに気持ちよくなってしまうのはいつも私の方。

キスをして愛の言葉を言い合いながら力強く押しつぶされそうなピストンをずりりとされて……♡汗や精液、漏らしてしまったおしっこなどでお部屋も思いきり汚しちゃった。

チエツクアウトの時、騒音と部屋を汚しすぎたということ、

ホテルの人から注意までされてしまいました。

いい大人なのに、とつても恥ずかしかったです。そういうことを気にせずにするならラブホテルじゃないとダメかしら……。あ、でも次からは彼の家だから気にしなくてもいいのかな？

結局、最初の勝負からずっと、為す術もなく負け続けてしまったけれど……いつかは勝負に勝って、家に帰ってみせるからね！

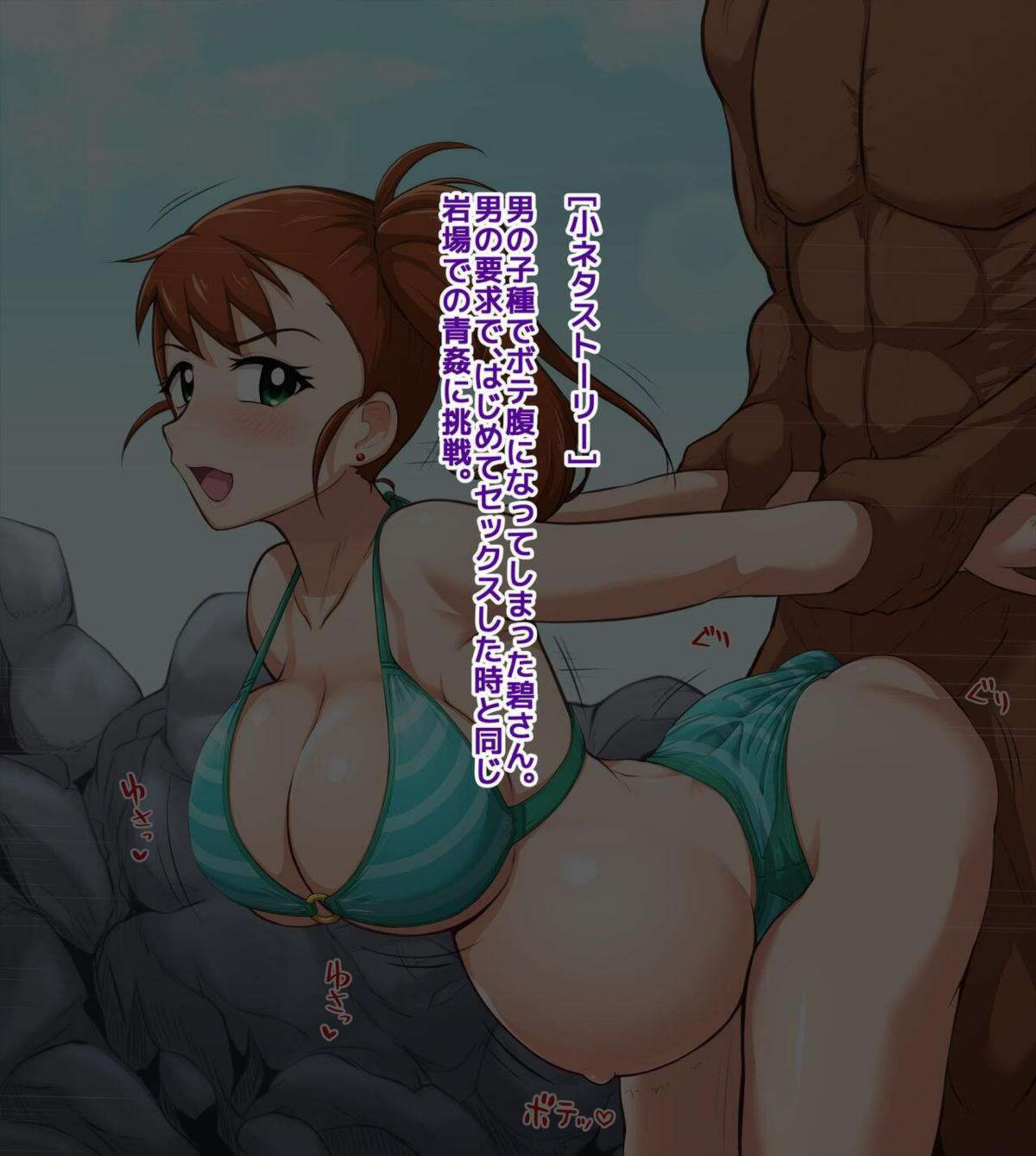
またしばらくしたら近況を手紙か動画で送ります。またなつ達を守るためにお母さん頑張ってくるから、離れていても元気だね。

私の大切な家族へ、愛をこめて——

お母さんより

『ホネタストリー』

男の子種でポテ腹になってしまった碧さん。  
男の要求で、はじめてセックスした時と同じ  
岩場での青姦に挑戦。



わざわざ初めて勝負した時と  
同じプレイがしたいなんて...

水着を着たお腹の大きい人なんていないから、  
すぐく注目されてたじゃない。  
すつごく恥ずかしかつた...もう。

うん、まごころへん

影になってて丁度よさそうね。  
それじゃあ早速はじめましょうか♡

あれから散々経験を積んだんだから、  
そう簡単には負けないわよ!

あ、でも...お腹の子もいるんだから、  
あんまり激しく突いちゃダメよ?♡  
中に出すのもダメだからねっ!♡



ズッ♡

ポテッ♡

ポテッ♡

ズッ

ズッ

やっ♡やっぱりダメえっ♡  
もう許してえっ♡♡  
赤ちゃんいるの♡♡  
激しくっ♡突きすぎよお♡

あっあっ、やあっ♡  
イクツ、いっちやうからっ♡  
ちよっと止まっ♡はっ♡はっ♡  
あっあっあっ♡あああっ♡

ビュッ  
ビュッ

びゅんっ♡

ダメツ、いくっイクイクっ♡  
一緒に…一緒にイってっ♡  
中出し…っ♡お願いっ…♡

びゅんっ♡

びゅんっ♡

ビュッ

ビュッ

ビュッ





や...やっぱり、あなたには  
どうしても勝てないみたい...ね♡  
はじめての時とおんなじになっちゃった...♡

...ね、もういいでしょう？  
あとは帰ってベッドでゆっくり...あつ!!

え？「まだ終わってない」って...ダメよ、  
これ以上こんな体勢で激しくしたら赤ちゃんが...  
んっ♡  
あう...ふ、あああああ♡♡

キム♡

キム♡

オビ♡

はあ...♡

はあ...♡

ダメ...またイっちゃうから...ダメだってばあ...♡



その後、水着をはぎ取られ全裸にされた私は、あの時を思い出すような激しいピストンで何度も何度もイカされてしまった。

あの時とは明確に違う、お腹が大きくなつた姿を晒しながら、みつともなくチンポを求める嬌声をあげて……

私が大きなき声をあげすぎたせいで人が来てしまい、ギャラリィに見られながらの妊娠セックスとなつてしまった。

（……あの人、私と目が合ったままシコシコして気持ち良さそうにオナニーしてたわね……）

正直……あの状況はすっごく良かった……♡

気持ちのいいセックスをすると子宮が降りて妊娠しやすいらしい。この子を産んだ後にする予定の妊娠出産勝負……絶対に勝てるわね♡  
たくさん気持ちよくなって、すぐに受精してみせるんだから！



びくっ♡

ビクッ♡  
ビクッ♡

ビクッ♡  
ビクッ♡

びくっ♡  
びくっ♡

びくっ♡  
びくっ♡

パンッ

パンッ

パンッ



「小ネタストーリー」  
男の家へ着いていった碧さんのその後

何度セックス勝負を挑んでも簡単にイカされて勝てない碧さん。  
見かねた男から勝負のルールを変えろ提案がされる。  
男が提案した新しい勝負のルールは

「俺の子種で妊娠・出産できたら碧の勝ち」

このシンプルな提案に対して碧さんは  
自身の妊娠・出産経験から勝ちを確信し、喜んで受け入れた。

そして勝負を開始してすぐに妊娠が発覚した彼女だったが  
それは時期的にはじめてこの男に中出しされた頃には  
既にデキていたためノーカウント、  
勝負はひとまずお腹の子を産んでから再開となった。

そして出産を控えた今、  
碧さんは次の勝負で万全を期すためにポテ腹のまま、  
この男が好むドスケベ女になるために  
日々自らを磨く事に勤しんでいた。







そろそろ予定日が近づいてきました。  
 今日も彼の精子をつくる機能が衰えないようにしっかりとセックスをしました。  
 まずはフエラで数回抜いた後、膈内出しの練習もしました。

そうそう、私の身体で前回と違うところ、わかるかしら？

驚いたかせちやった？  
 彼にどうしてもつてせがまれて…ね。  
 最初は拒否したのよ？でも3日もセックスをお預けされちゃって  
 仕方なく、彼の知り合いにピアスとタトウをいれてもらいました。

2人目♡



●REC



ピアスは乳首の感度があがるらしいから、家に帰った時のあなたとのセックスの時には役立つかと思います。楽しみにしててね♡

出産が終わった頃にもまた連絡します。その時はいよいよ妊娠・出産勝負の本番。絶対また彼の子どもを妊娠して産んで、無事に勝って帰るからね！まなつと二人で、応援しててくれるとうれしいわ♪



● REC



いよいよよ今日から勝負を再開。

この日のためにニップルピアスも新しいのに変えたし、肌だつてわざわざ日焼けしたのよ？  
ここまで彼好みの女になつたんだから、大丈夫！

さつき乳首とクリをいじって気分も盛り上げておいたし  
彼がハンドデとして用意してくれた排卵誘発剤も飲んだから準備万端！  
絶対に彼に気持ちよく中出しさせて、一発で受精してみせるからね！



●REC



ここだけの話、今日は前戯のフェラでちよつと手を抜いて、  
膣内出しのために精力を温存させるつもりなの♪

そして不満気な彼におまんこを指で拵げて挿入をおねだりするの♡  
ちよつとズルいけど、勝つためだから...いいわよね？



そろそろ彼のシャワーが終わりそうだから終わりにするわね。  
妊娠検査薬で陽性の結果が出たらまた連絡します。  
じゃあね♡



●REC



あなた、久しぶり。元気だった？  
 彼との勝負を始めてもう2年。  
 どうとう私の勝ちが決まりそうです。

無事に生まれなかつた時のことを考えて、  
 彼とは毎日のように子作りの練習をしてきましたがそれも終わり。

無事に出産を終え次第、データを消して家に帰れると思います。  
 約束を守ってくれるか不安だった時期もあったけど……大丈夫。  
 彼、根はとつてもやさしいから……。

3人目♡



●REC





今度の連絡は帰りの飛行機が決まった頃になるかしら？

帰ったらこれまで会えなかつた分、いっぱいセックスしましょうね♡  
彼に教えてもらったエッチなテクニック、いっぱい披露して  
いっっぱい気持ちよくしてあげる♡

それじゃあ、会える日を楽しみにしています。  
まなつにもよろしく伝えておいてね♡  
愛するあなたへ、碧より。



● REC







そろそろ予定日が近づいてきました。  
 今日も彼の精子をつくる機能が衰えないようにしつかりとセックスをしました。  
 まずはフエラで数回抜いた後、膈内出しの練習もしました。

そうそう、私の身体で前回と違うところ、わかるかしら？

驚いたかせちやった？  
 彼にどうしてもつてせがまれて…ね。  
 最初は拒否したのよ？でも3日もセックスをお預けされちゃって  
 仕方なく、彼の知り合いにピアスとタトウをいれてもらいました。

2人目♡



●REC



ピアスは乳首の感度があがるらしいから、家に帰った時のあなたとのセックスの時には役立つと思います。楽しみにしててね♡

出産が終わった頃にもまた連絡します。その時はいよいよ妊娠・出産勝負の本番。絶対また彼の子どもを妊娠して産んで、無事に勝って帰るからね！まなつと二人で、応援していてくれるとうれしいわ♪



● REC



いよいよ今日から勝負を再開。

この日のためにニップルピアスも新しいのに変えたし、肌だつてわざわざ日焼けしたのよ？  
ここまで彼好みの女になつたんだから、大丈夫！

さつき乳首とクリをいじって気分も盛り上げておいたし  
彼がハンデとして用意してくれた排卵誘発剤も飲んだから準備万端！  
絶対に彼に気持ちよく中出しさせて、一発で受精してみせるからね！



● REC



ここだけの話、今日は前戯のフェラでちよつと手を抜いて、  
膣内出しのために精力を温存させるつもりなの♪

そして不満気な彼におまんこを指で拵げて挿入をおねだりするの♡  
ちよつとズルいけど、勝つためだから...いいわよね？

そろそろ彼のシャワーが終わりそうだから終わりにするわね。  
妊娠検査薬で陽性の結果が出たらまた連絡します。  
じゃあね♡



●REC



あなた、久しぶり。元気だった？  
彼との勝負を始めてもう2年。  
とうとう私の勝ちが決まりそうです。

無事に生まれなかつた時のことを考えて、  
彼とは毎日のように子作りの練習をしてきましたがそれも終わり。

無事に出産を終え次第、データを消して家に帰れると思います。  
約束を守ってくれるか不安だった時期もあったけど……大丈夫。

彼、根はとつてもやさしいから……。

3人目♡



●REC





今度の連絡は帰りの飛行機が決まった頃になるかしら？

帰ったらこれまで会えなかつた分、いっぱいセックスしましょうね♡  
彼に教えてもらったエッチなテクニック、いっぱい披露して  
いっっぱい気持ちよくしてあげる♡

それじゃあ、会える日を楽しみにしています。  
まなつにもよろしく伝えておいてね♡  
愛するあなたへ、碧より。



● REC



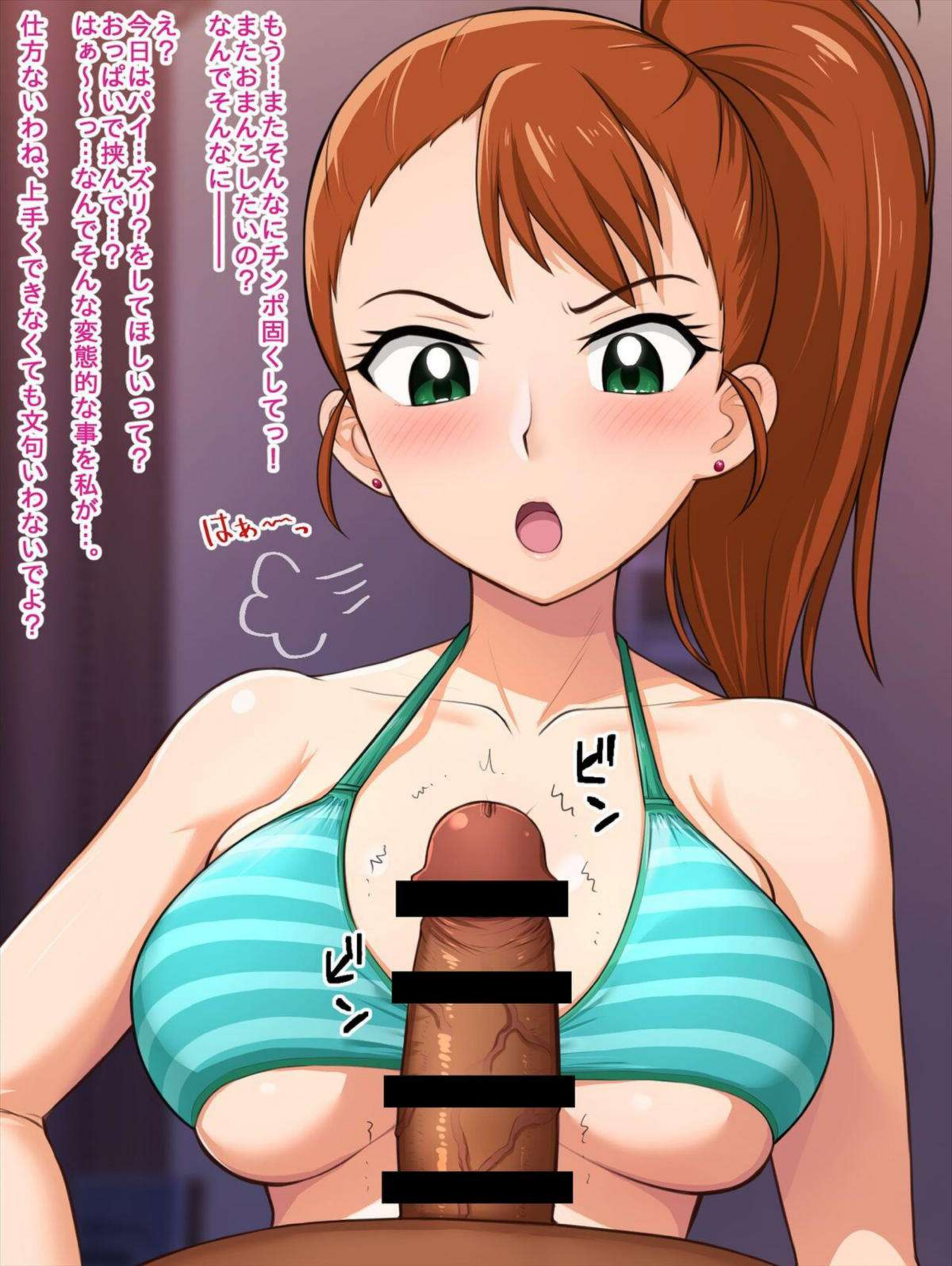
「小ネタストーリー」

碧さん、はじめてのパイズリ奉仕

もう…またそんなにチンポ固くしてっ！  
またおまんこしたいの？  
なんでそんなに——

はあ〜っ

え？  
今日はパイ…ズリ？をしてほしいって？  
おっぱいで挟んで…？  
はあ〜っ…なんでそんな変態的な事を私が…。  
仕方ないわね、上手くできなくても文句いわないでよ？

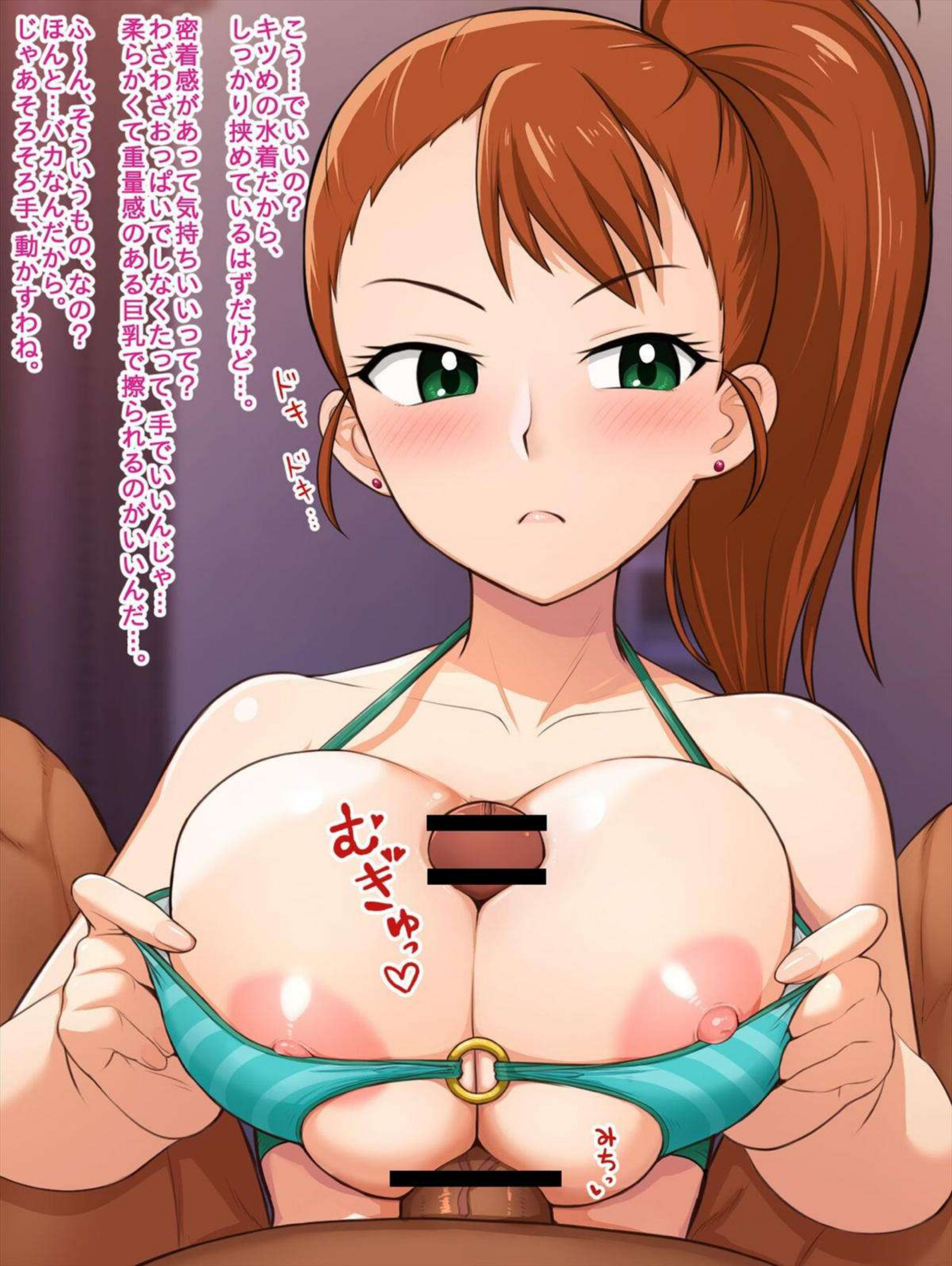


こう...でいいの？  
キツめの水着だから、  
しっぴかり挟めているはずだけど...

エキエキ...

密着感があつて気持ちいいって？  
わざわざおっぱいでしなくたって、手でいいんじゃない？  
柔らかくて重量感のある巨乳で擦られるのがいいんだ...

ふん、そういうもの、なの？  
ほんと...バカなんだから。  
じゃあそろそろ手、動かすわね。



はっ...はあっ...、まだ出ないの？  
涎で滑りをよくするとともに気持ちいい？

あ〜...っ...じゅる...はあ。あえ〜っ...。

(おっぱいでちんぽを擦るために  
唾液垂らすなんて...なんか、恥ずかしいわね)

ほらっ！これでいい？気持ちいい？

(おっぱいからグチュグチュってすごい音が...っ  
な、なんかこれって、かなり恥ずかしいんじゃない？)

たは、



たは、



へっ

へっ

ちんぽ...っ

ちんぽ

ちんぽ

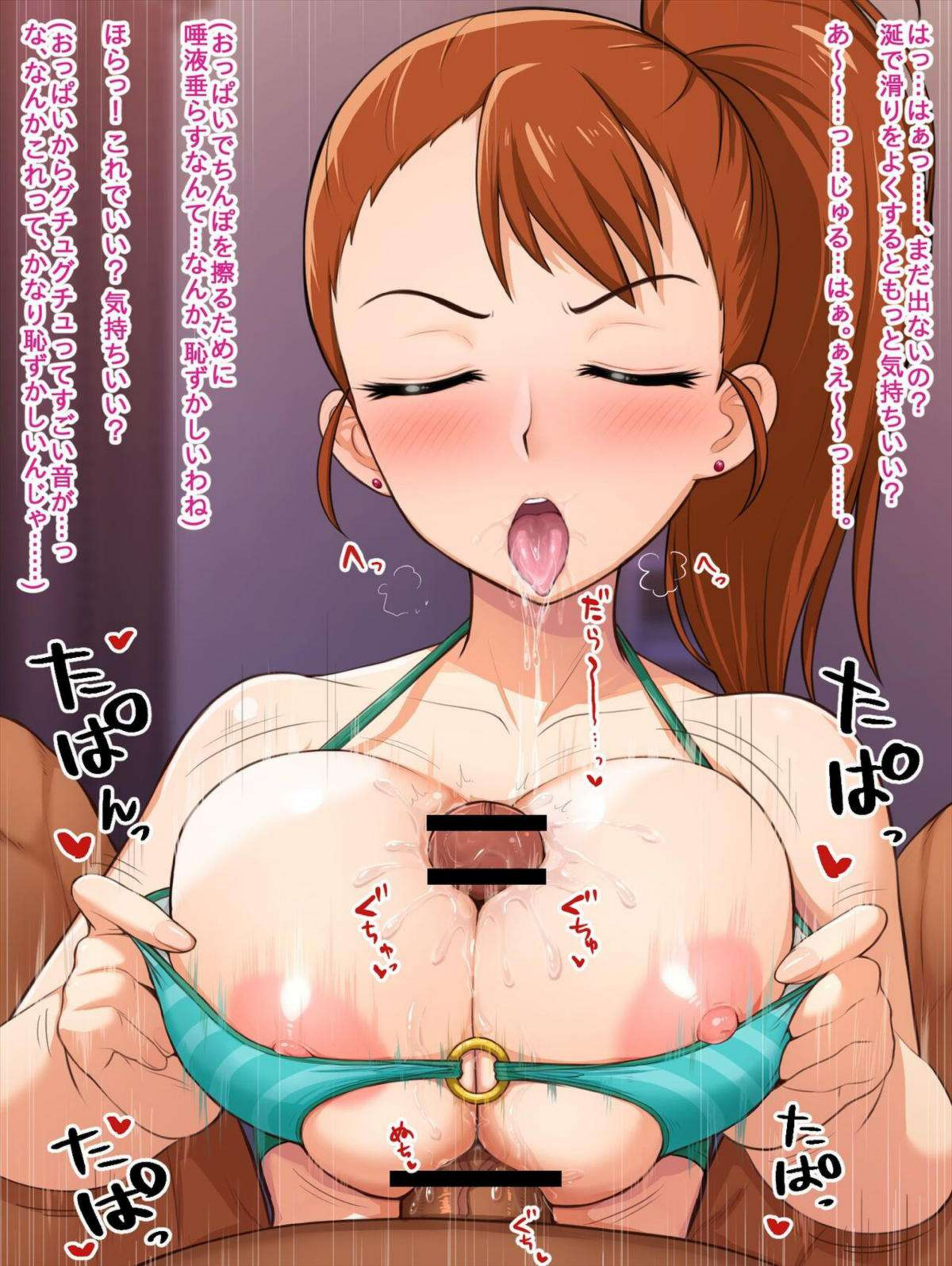
ちんぽ

ちんぽ

たは、



たは、



わ、わわ、きやああつ！  
(急に出ちやつた……！あ、気持ちよさそうな顔してる。  
ああつ……精液が顔と胸にいつぱいかかつて……！)

（ムフ……ムフ……ムフ……ムフ……）



ムフ……ムフ……ムフ……ムフ……

ムフ……ムフ……ムフ……ムフ……

たはん

たはん

たはん

たはん



おぎんちん

ぬち

ちん





もう！出すなら出すっていつてよお〜。  
それにいつもより早く早い？  
へえ、そんな余裕なかったんだ？  
そ、そんなに私のおっぱい、、、気持ちよかったの、、、？  
ふ〜ん、そう、、、なんだ。

ねえ。パイズリ、もっとして欲しい？

びゅびゅびゅ

ぐとびゅ〜

ぶるぶる

びゅびゅ

びゅびゅ  
びゅびゅ

(なんか今日はしおらしいし、素直ね。  
これはこれで、ちよつと楽しいかも...?)

まったく...仕方ないわねえ  
ほくんと、エッチなんだから

じゃあ今日は私のおっぱいに挟まれて  
いっぱい出しちゃいなさい!

ホラホラ、ほらあつ♡どうだつ♡  
おチンポ、またビクビクしてるわよ?♡  
我慢しないで情けなく射精しちゃいなさい♡  
えい、えいつ♡どうだつ♡

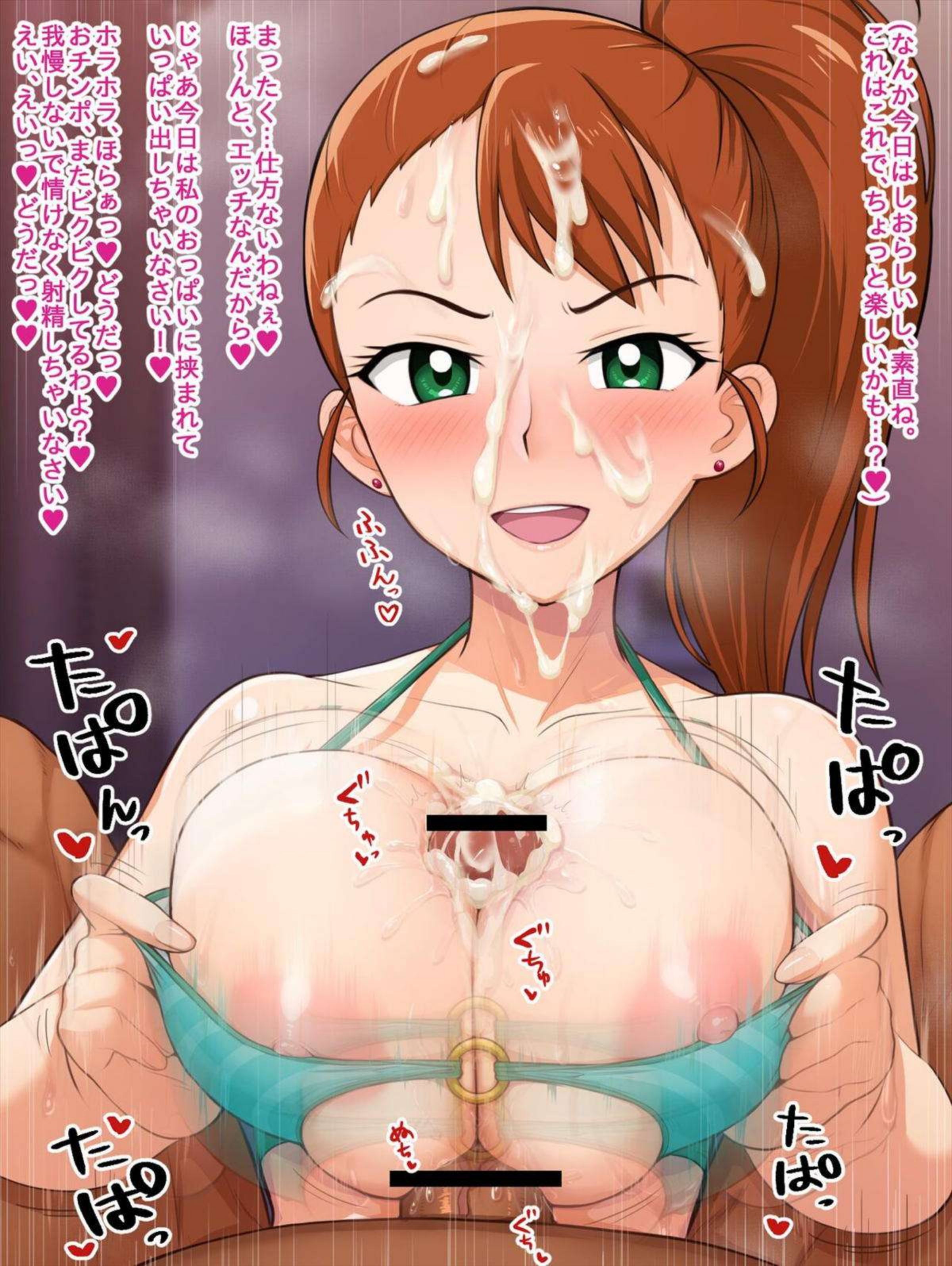
たはは♡

たはは♡

たはは♡

たはは♡

たはは♡





あっ!? わあ〜♡

.....もうっ!

2回目なのにこんなに出してっ!!

すっ~~~~ふう~~~~はあ♡  
すっ~~~~いオスの臭い.....♡



グ~~~~ン

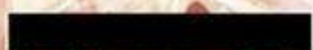
グ~~~~ン

たはん♡

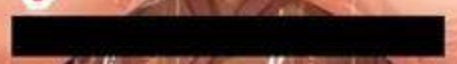
たはん♡

たはん♡

たはん♡



ぐ~~~~ん♡



ぬち♡

ぐ~~~~ん♡



ドキドキ...

おちちる

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

おちちる

おちちる

こんなドロドロに濃くてにおいが強い精液、  
子宮に注ぎこまれてたら  
絶対受精しちゃつてたわね。  
あぶないあぶない♡

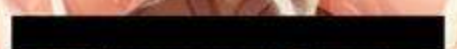
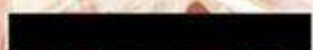
悪さできないようにおっぱいでゼーンぶ  
搾り取ってあげなくちゃね♡

やめてつて言つても逃がさないから  
覚悟しなさい♡

むわっ

ふっふっ

♡



ふふふふ♡♡♡♡♡

♡ニミちゅ♡♡♡♡♡

ぬちゅ♡♡♡♡♡

はぁ♡♡♡♡♡

ニミちゅ♡♡♡♡♡

ぬちゅ♡♡♡♡♡

ふふふふ♡♡♡♡♡

ニミちゅ♡♡♡♡♡

ぬちゅ♡♡♡♡♡

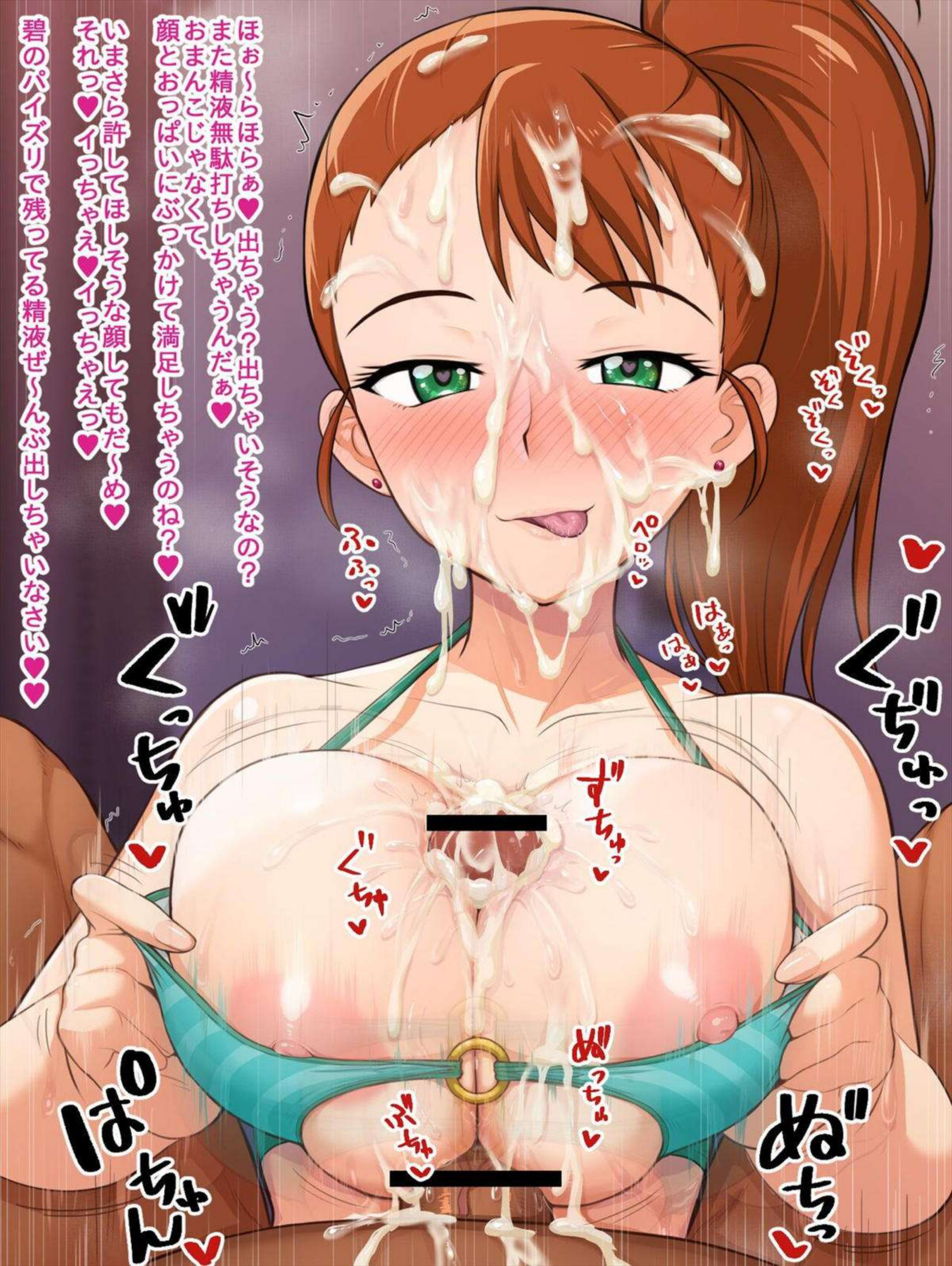
ほおくらほらあ♡出ちゃう？出ちやいそうなの？  
また精液無駄打ちしちゃうんだあ♡  
おまんこじゃなくて、  
顔とおっぱいにぶっかけて満足しちゃうのね？♡

いまさら許してほしそうな顔してもだめ♡  
それっ♡イっちゃえ♡イっちゃえっ♡

碧のパイズリで残ってる精液ぜんぶ出しちやいなさい♡♡

♡ちゅ♡♡♡♡♡

ほおちゃん♡♡♡♡♡



あはあっ♡出た出たっ♡♡♡  
まだ勢いあるじゃない♡♡  
これはまだまだイケそうね…♡

こらっ、腰を引いてもダメよ！♡  
パイズリしてほしいうって言ったのはあなたでしよう？  
おちんぽがビクビクツツてしても精液が  
出なくなったら解放してあげるわ♡  
それまではあゝ♡  
おとなしくパイズリされてなさいね♡♡

あは♡♡♡

おちんぽ…おちんぽ…  
おちんぽ…おちんぽ…

おちんぽ…おちんぽ…  
おちんぽ…おちんぽ…

おちんぽ…おちんぽ…

おちんぽ…おちんぽ…  
おちんぽ…おちんぽ…

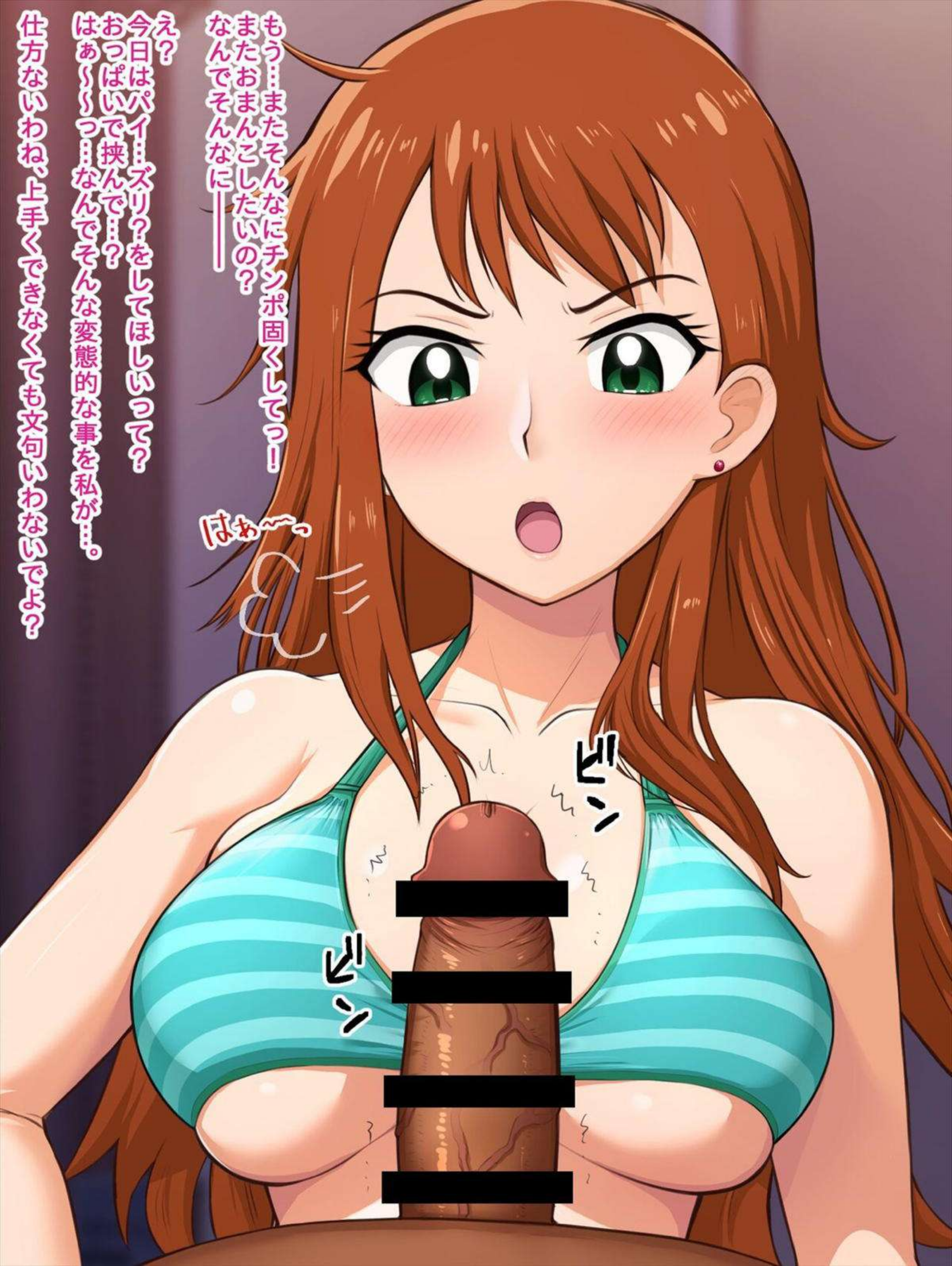
おちんぽ…おちんぽ…



もう…またそんなにチンポ固くしてっ！  
またおまんこしたいの？  
なんでそんなに——

はあ〜っ  
〜っ  
〜っ

え？  
今日はパイ…ズリ？をしてほしいって？  
おっぱいで挟んで…？  
はあ〜っ…っ…なんでそんな変態的な事を私が…。  
仕方ないわね、上手くできなくても文句いわないでよ？

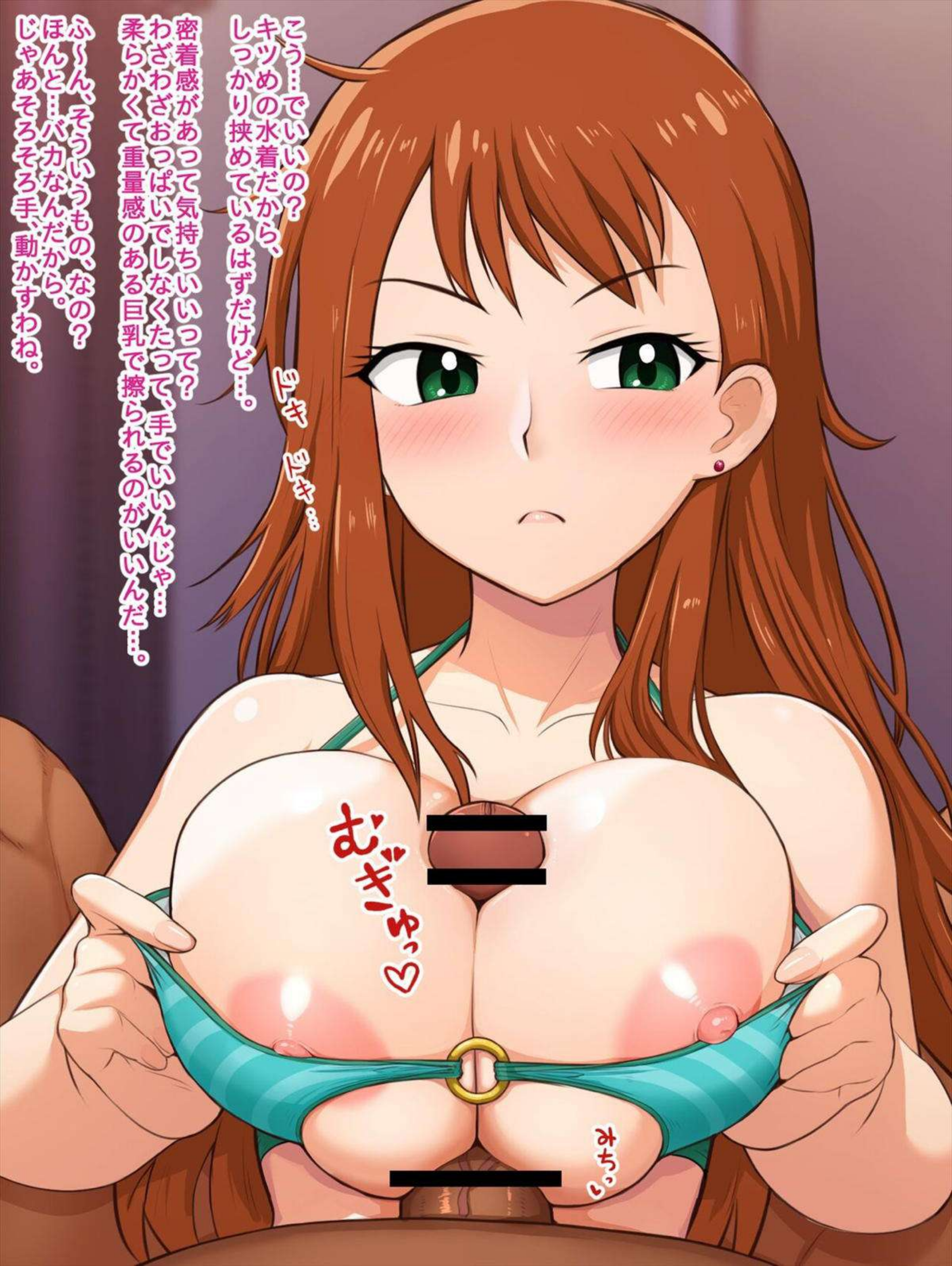


こう…でいいの？  
キツめの水着だから、  
しっぴかり挟めているはずだけど…。

Eキ Eキ…

密着感があつて気持ちいいって？  
わざわざおっぱいでしなくたって、手でいいんじゃない？  
柔らかくて重量感のある巨乳で擦られるのがいいんだ…。

ふん、そういうもの、なの？  
ほんと…バカなんだから。  
じゃあそろそろ手、動かすわね。



はっ...はあっ...、まだ出ないの？  
涎で滑りをよくするとともに気持ちいい？

あ〜...っ...じゅる...はあ。あえ〜っ...。

(おっぱいでちんぽを擦るために  
唾液垂らすなんて...なんか、恥ずかしいわね)

ほらっ！これでいい？気持ちいい？

(おっぱいからグチュグチュってすごい音が...っ  
な、なんかこれって、かなり恥ずかしいんじゃない？)

たはっ、

たはっ、

たはっ、

たはっ、





(急に出ちやつた...! あ、気持ちよさそうな顔してる。  
ああつ...精液が顔と胸にいつぱいかかつて!)

わ、わわ、ぎやああつ!  
(ムフ...ムフムフ...ムフ...ムフ...)



ググググググググググググ

ググググググググググググ

たはもん♡

たはもん♡

たはもん♡

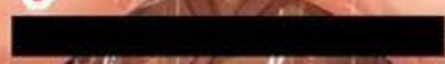
たはもん♡



ぬちゅ♡

ぐちゅ♡

おぎゅちゅ♡







ドロ...

ぐとび...

どろどろ...

もう！出すなら出すっていつてよお。それにいつもより早く早い？へえ、そんな余裕なかったんだ？

そ、そんなに私のおっぱい...、気持ちよかったの...？ふん、そう...なんだ。

.....ねえ。パイズリ、もっとして欲しい？

びしょ...

びしょ...

びしょ...  
びしょ...

(なんか今日はしおらしいし、素直ね。  
これはこれで、ちよつと楽しいかも...?)♡

まったく...仕方ないわねえ♡  
ほくんと、エッチなんだから♡

じゃあ今日は私のおっぱいに挟まれて  
いっぱい出しちゃいなさい!!♡

ホラホラ、ほらあつ♡どうだつ♡  
おチンポ、またビクビクしてるわよ?♡  
我慢しないで情けなく射精しちゃいなさい♡  
えい、えいつ♡どうだつ♡♡

んんん♡

たはっ♡

たはっ♡

んんん♡

んんん♡

んんん♡

んんん♡

たはっ♡

たはっ♡

あっ!? わあ〜♡

.....もうっ!

2回目なのにこんなに出してっ!!

すっ~~~~ふう~~~~はあ♡  
すっ~~~~いオスの臭い.....♡



ぐわんぐわん

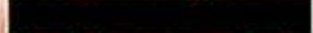
ぐわんぐわん

たはん

たはん

たはん

たはん



ぐわんぐわん

ぬちゅ♡

ぐわん

ドキドキ...

るんるん

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

こんなドロドロに濃くておいが強い精液、子宮に注ぎこまれてたら絶対受精しちゃってたわね。あぶないあぶない♡

悪さできないようにおっぱいでゼーんぶ搾り取ってあげなくちゃね♡

やめてって言うても逃がさないから覚悟しなさい♡

むわっ♡



ほおくらほらあ♡出ちゃう？出ちゃいそうなの？  
また精液無駄打ちしちゃうんだあ♡  
おまんこじゃなくて、  
顔とおっぱいにぶっかけて満足しちゃうのね？♡

いまさら許してほしそうな顔してもだるめ♡  
それっ♡イっちゃえ♡イっちゃえっ♡

碧のパイズリで残ってる精液ぜんぶ出しちゃいなさい♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

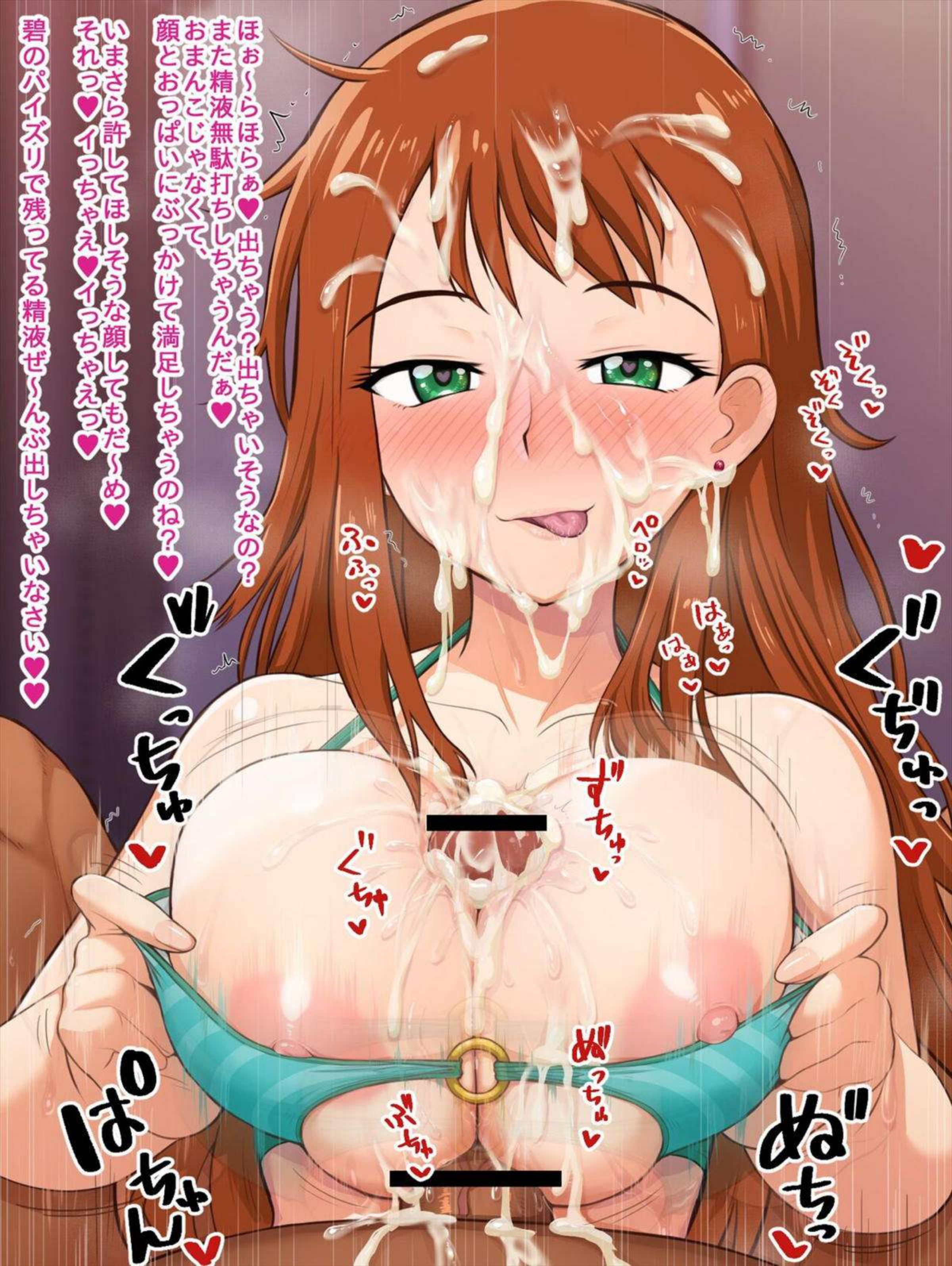
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



あはあつ♡出た出たっ♡♡♡  
まだ勢いあるじゃない♡♡  
これはまだまだイケそうね…♡

こらっ、腰を引いてもダメよ！♡  
パイズリしてほしいうつて言ったのはあなたでしよう？  
おちんぽがビクビクツつてしても精液が  
出なくなったら解放してあげるわ♡  
それまではあゝ♡  
おとなしくパイズリされてなさいね♡♡

あは♡♡♡  
♡♡♡

おちんぽ…おちんぽ…  
おちんぽ…おちんぽ…

おちんぽ…  
おちんぽ…

おちんぽ…  
おちんぽ…

おちんぽ…  
おちんぽ…

おちんぽ…  
おちんぽ…

おちんぽ…  
おちんぽ…

おちんぽ…  
おちんぽ…



「ホネタストーリー」

催眠スマホで認識改変されて  
無自覚のまま砂浜露出デビューをさせられたら…



今日は朝から彼の持つているスマホの画面を見せられた。時々このよくわからない事をするけれど、何の意味があるのかいまだにわからない。そして今、ホテルで新しい水着に着替えた私は彼の車でビーチのすぐそばまで来ていた。いつもと違う行動が目につく。なんだか妙だわ。これから何をさせられるか。気をつけないと。

よし、準備OKだな。

それじゃあさつき言った通り、砂浜をゆっくり「散歩」してこい。

……え？ それだけでいいの？

そうだ。最低30分、一度もナンパされずに車に戻ってこれたら碧の勝ち。データは全部消して、家まで送り届けてやるよ。

!? ……嘘じゃないでしょうね？

ああ。ただし！

もしも誰かに声をかけられたらちゃんと逃げずに相手してやるんだぞ

突然新しい勝負をもちかけられたけど、拍子抜けだった。

（そんな簡単な勝負でいいの？）

今日着るように言われたこの水着なんて、

ものすごく地味で落ち着いたデザインだ。

それにそもそも、このビーチにはそういう目的の男の人は多くない。

みんな純粋に自然を楽しみに着ている人ばかりなのを私は知っている。

（うふふっ♪ きつとそんな事は知らないのね。この勝負もらったわ！）

じゃあ軽くお散歩してくるわね。

30分したら戻ってくるから、データを消す準備、しておいてよね。

おう、さっさと帰る。





車を降りて砂浜に足を踏み入れる。

「……あら？今日はなんだか人が多いわね。何かイベントでもあるのかしら。」

あつ！おい、あれつて……！

ああ、絶対そうさ！間違えようがないぜ、あんなの。

参加費3000円で安かったから不安だったけど美人じゃん！

おっぱいデケーし、ヤバいくらいエッ回いな……！ 早めに来てよかったー！

（なんか……こっちを見て話してる……？）

お散歩をはじめて3分と経たずに、何故か男の人達が私に注目してる。



（な……何？なんか近づいてくる……。え？なんで今日に限って……？今までそんなこと……）

お……おお、お姉さん。そんな恰好してどーしたの？

え？ああ、ちよつとお散歩中です。今日は天気もいいし、海が好きなので気分転換に。

そんな恰好でお散歩……ね。

なに？変態な旦那にでも命令されたの？



「っ！……何を言い出すかと思ったら、なんて失礼なことを言うの!？」

私の夫は変態じゃありませんし、命令なんてしません！  
散歩は…別の人に言われてやっっているだけです！勘違いしないで！

あく、旦那じゃ満足できなくて、つてことかあ。  
じゃあ旦那とは別の彼氏に命令されてやっってるんだ。  
お姉さん、めっちゃくちゃ性欲強い変態なんだねえ。

（さっきから何なの、この人たち…！もう無視していこう。  
これはただ暴言を言われてるだけだから、ルール違反じゃないでしょ。）

そう思って男の人達の間をすり抜けようとした時——肩をつかまれた。

ねえ、無視しないでやらせてよ。つていうかやっつていらいんでしょ？  
みんなそういうプレイだつて知ってるんだよ。

一人がとんでもない要求をしたのを切っ掛けに、  
まわりの男の人も最初は俺にやらせるだとか  
めっちゃくちゃな事をいいながら争いはじめた。

（いっ…いくらなんでもおかしいわ…！なんでこんな…！）

ちよ、ちよつと待つてくださいつ！ —旦那に戻つて確認を—

はあつ!? そんな恰好して出てきて、今更怖気づいてるんじゃないよ—!  
こつちは金払つて期待して待つてたんだ、逃げるな—!

もういいから書いてる通り、無理矢理やっちまおうぜ—!  
俺達でたつぷり調教してやろうぜ。

えっ!?何をするつもりですか…!ひっ!  
いや、いやいや…何するの、やめて…いやあああああああつ!!



(ビュルッーッービュルルッー！)

う…うぶつ…！うええつ…！んぐ、んんっ！

おっおおおおっ…気持ちいい。すっげえフェラだった。俺の精液ちゃんと飲んでね、お姉さん♡

あれからのくらい経つたんだろう。急に複数の人に襲われた私は、取り囲まれてたくさんのおちんちんの相手をさせられていた。見知らぬ人に、口、おっぱい、アソコを好きなように使われ、精液を吐き出された。

ううう…！わけがわからないわ…！  
なんでこんなことになってしまったの…？

射精した人は他の人にすぐにとかさされ、またすぐに次のおちんちんが私に…。まわりでスマホを構えて撮影するのを止めることも、もう諦めた。

(ビュルッーッービュルルッー！)

はう、ううううっ！あああつ…また中に…。

やっばー！このマンコ、まじやべー！す、すぐ出ちまったからもう一発…。

おい！出したならさっさとどけよ！後がつかえてんだから！



時間が過ぎるほどに周りにいる男性の数は増えているようだった。私からは海なんてまったく見えないほどに。

いや…もうおちんぽいやあ…。帰りたいの…お願い、もうやめて…。

ダメだよ、碧さん。終わりの時間までまだ8時間くらいあるんだから。

そーそー。まだ一発も出してないやつだったってたくさんいるんだから。俺達のちんぽでたっつぷり舐めてあげるからね。

やだ…もうやだあ…もうやめてください…。あっ！あううっ！入れ、ないで…あっ！あああっ！♡

本気で嫌がってるように見えて、チンポ入れたら甘い声あげるんだよなあ。碧さんってなんかソソる変態さんだねえ。

（もう勝負なんてどうでもいいから…お願い、助けに来てよお…）



その後、参加費3000円公開調教イベント終了の19時まで多数の男達に精液を吐き出され続けた。そして終了時、全身ドロドロでぐったりとしていた碧は参加者の中でも特にイカツイタトゥー入りの男達の二団によって車に運ばれ、どこかへ連れ去られてしまった。

あー、どこにもいねえ。迎えに来るの遅かったか？ やっちゃまったなあ。車の中でぐっすり寝ちまったよ。まだやり飽きてなかったんだが…んんん、まあいいか。明日からまた次の女探しにいくか。

その後、彼女がどうなったのかは、誰も知らない。

車を降りて砂浜に足を踏み入れる。

「……あら？今日はなんだか人が多いわね。何かイベントでもあるのかしら。」

あつ！おい、あれつて……！

ああ、絶対そうさ！間違えようがないぜ、あんなの。

参加費3000円で安かったから不安だったけど美人じゃん！  
おっぱいデケーし、ポテ腹でヤバいくらいエツ回いな……！ 早めに来てよかったー！



（なんか……こっちを見て話をしてる……？）  
お散歩をはじめて3分と経たずに、何故か男の人達が私に注目している。



（な……何？なんか近づいてくる……。  
え？なんで今日に限って……？今までそんなこと……）

お……おお、お姉さん。そんな恰好してどーしたの？

え？ああ、ちよつとお散歩中です。  
今日は天気もいいし、海が好きなので気分転換に。

そんな恰好でお散歩……ね。  
なに？変態な旦那にでも命令されたの？



「っ！……何を言い出すかと思ったら、なんて失礼なことを言うの!?!」

私の夫は変態じゃありませんし、命令なんてしません！  
散歩は…別の人に言われてやっつけているだけです！勘違いしないで！

あく、旦那じゃ満足できなくて、つてことかあ。  
じゃあ旦那とは別の彼氏に命令されてやっつけてるんだ。お腹もその彼の種で？  
お姉さん、めっちゃくちゃ性欲強い変態なんだねえ。

（さっきから何なの、この人たち…！もう無視していこう。  
これはただ暴言を言われてるだけだから、ルール違反じゃないでしょ。）

そう思って男の人達の間をすり抜けようとした時——肩をつかまれた。

ねえ、無視しないでやらせてよ。つていうかやっつけていらいんでしょ？  
みんなそういうプレイだつて知ってるんだよ。

一人がとんでもない要求をしたのを切っ掛けに、  
まわりの男の人も最初は俺にやらせるだとか  
めっちゃくちゃな事をいいながら争いはじめた。

（いっ…いくらなんでもおかしいわ…！なんでこんな…）

ちよ、ちよつと待つてくださいつ！ 一旦車に戻って確認を

はあつ!? そんな恰好して出てきて、今更怖気づいてるんじゃないよ！  
こつちは金払つて期待して待つてたんだ、逃げるな！

もういいから書いてる通り、無理矢理やっちまおうぜ！  
俺達でたつぷり調教してやろうぜ。

えっ!? 何をするつもりですか…！ひっ！  
いや、いやいや…何するの、やめて…いやああああああああつ!!



(ビュルッーッービュルルッー)

う…うぶつ…うええつ…んぐ、んんっ！

おっおおおおっ…気持ちいい。すっげえフェラだった。俺の精液ちゃんと飲んでね、お姉さん♡

あれからのくらい経つたんだろう。急に複数の人に襲われた私は、取り囲まれてたくさんのおちんちんの相手をさせられていた。見知らぬ人に、口、おっぱい、アソコを好きなように使われ、精液を吐き出された。

ううう…わけがわからないわ…。なんでこんなことになってしまったの…？

射精した人は他の人にすぐどこかされ、またすぐに次のおちんちんが私に…。まわりでスマホを構えて撮影するのを止めることも、もう諦めた。



(ビュルッーッービュルルッー)

はう、ううううっ！あああつ…また中に…。

やっばーこのマンコ、まじやべー！す、すぐ出ちまったからもう一発…。

おい！出したならさっさとどけよ！後がつかえてんだから！

フェラ・パイアズリ  
大好き♡

命令しな  
ハイヤリもOK♡

ドスケベな  
子持ち人妻♡

変態プレイ  
調教中♡

自由な  
どうぞ♡

時間が過ぎるほどに周りにいる男性の数は増えているようだった。私からは海なんてまったく見えないほどに。

いや…もうおちんぽいやあ…。帰りたいの…お願い、もうやめて…。

ダメだよ、碧さん。終わりの時間までまだ8時間くらいあるんだから。

そーそー。まだ一発も出してないやつだったってたくさんいるんだから。俺達のちんぽでたっぷり舐めてあげるからね。

やだ…もうやだあ…もうやめてください…。あっ！あううっ！入れ、ないで…あっ！あああっ！♡

本気で嫌がってるように見えて、チンポ入れたら甘い声あげるんだよなあ。碧さんってなんかソソる変態さんだねえ。

（もう勝負なんてどうでもいいから…お願い、助けに来てよお…）

その後、参加費3000円公開調教イベント終了の19時まで多数の男達に精液を吐き出され続けた。そして終了時、全身ドロドロでぐったりとしていた碧は参加者の中でも特にイカツイタトゥー入りの男達の二団によって車に運ばれ、どこかへ連れ去られてしまった。

あー、どこにもいねえ。迎えに来るの遅かったか？やっちゃまったなあ。車の中でぐっすり寝ちゃったよ。まだやり飽きてなかったんだが…んんん、まあ1回孕ませたしいいかあ。明日からまた次の女探しに行くか。

その後、彼女がどうなったのかは、誰も知らない。









車を降りて砂浜に足を踏み入れる。

「……あら？今日はなんだか人が多いわね。何かイベントでもあるのかしら。」

あつ！おい、あれつて……！

ああ、絶対そうさ！間違えようがないぜ、あんなの。

参加費3000円で安かったから不安だったけど美人じゃん！

おっぱいデケーし、ヤバいくらいエッ回いな……！ 早めに来てよかったー！



（なんか……こっちを見て話をしてる……？）  
お散歩をはじめて3分と経たずに、何故か男の人達が私に注目している。



（な……何？なんか近づいてくる……。  
え？なんで今日に限って……？今までそんなこと……）

お……おお、お姉さん。そんな恰好してどーしたの？

え？ああ、ちよつとお散歩中です。  
今日は天気もいいし、海が好きなので気分転換に。

そんな恰好でお散歩……ね。

なに？変態な旦那にでも命令されたの？



「っ！……何を言い出すかと思ったら、なんて失礼なことを言うの!?!」

私の夫は変態じゃありませんし、命令なんてしません！  
散歩は…別の人に言われてやっっているだけです！勘違いしないで！

あく、旦那じゃ満足できなくて、つてことかあ。  
じゃあ旦那とは別の彼氏に命令されてやっってるんだ。  
お姉さん、めっちゃくちゃ性欲強い変態なんだねえ。

（さっきから何なの、この人たち…！もう無視していこう。  
これはただ暴言を言われてるだけだから、ルール違反じゃないでしょ。）

そう思って男の人達の間をすり抜けようとした時——肩をつかまれた。

ねえ、無視しないでやらせてよ。つていうかやっつていらいんでしょ？  
みんなそういうプレイだつて知ってるんだよ。

一人がとんでもない要求をしたのを切っ掛けに、  
まわりの男の人も最初は俺にやらせるだとか  
めっちゃくちゃな事をいいながら争いはじめた。

（いっ…いくらなんでもおかしいわ…！なんでこんな…）

ちよ、ちよつと待つてくださいいっ！ —旦那に戻って確認を—

はあつ!? そんな恰好して出てきて、今更怖気づいてるんじゃないよ—!  
こつちは金払って期待して待つてたんだ、逃げるな!

もういいから書いてる通り、無理矢理やっちまおうぜ!  
俺達でたつぷり調教してやろうぜ。

えっ!?何をやるつもりですか…!ひっ!  
いや、いやいや…何するの、やめて…いやあああああああつ!!



(ビュルッーッービュルルッー！)

う…うぶつ…うええつ…んぐ、んんっ！

おっおおおおっ…気持ちいい。すっげえフェラだった。俺の精液ちゃんと飲んでね、お姉さん♡

あれからのくらい経つたんだろう。急に複数の人に襲われた私は、取り囲まれてたくさんのおちんちんの相手をさせられていた。見知らぬ人に、口、おっぱい、アソコを好きなように使われ、精液を吐き出された。

ううう…わけがわからないわ…。なんでこんなことになってしまったの…？

射精した人は他の人にすぐどこかされ、またすぐに次のおちんちんが私に…。まわりでスマホを構えて撮影するのを止めることも、もう諦めた。

(ビュルッーッービュルルッー！)

はう、ううううっ！あああつ…また中に…。

やっぱ…このマンコ、まじやべー！す、すぐ出ちゃったからもう一発…。

おい！出したならさっさとどけよ！後がつかえてんだから！



時間が過ぎるほどに周りにいる男性の数は増えているようだった。私からは海なんてまったく見えないほどに。

いや…もうおちんぽいやあ…。帰りたいの…お願い、もうやめて…。

ダメだよ、碧さん。終わりの時間までまだ8時間くらいあるんだから。

そーそー。まだ一発も出してないやつだったってたくさんいるんだから。俺達のちんぽでたっつぷり舐めてあげるからね。

やだ…もうやだあ…もうやめてください…。

あっ！あううっ！入れ、ないで…あっ！あああっ！♡

本気で嫌がってるように見えて、チンポ入れたら甘い声あげるんだよなあ。碧さんってなんかソソる変態さんだねえ。

（もう勝負なんてどうでもいいから…お願い、助けに来てよお…）

その後、参加費3000円公開調教イベント終了の19時まで多数の男達に精液を吐き出され続けた。そして終了時、全身ドロドロでぐったりとしていた碧は参加者の中でも特にイカツイタトゥー入りの男達の二団によって車に運ばれ、どこかへ連れ去られてしまった。

あー、どこにもいねえ。迎えに来るの遅かったか？やっちゃまったなあ。車の中でぐっすり寝ちまったよ。まだヤリ飽きてなかったんだが…んん、まあいいか。明日からまた次の女探しに行くか。

その後、彼女がどうなったのかは、誰も知らない。



































● REC



● REC



















[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

3人目



ス  
キ  
♡

キ  
ス  
♡

ポ  
テ  
♡

ハ  
ハ

ハ  
ハ





あーん♡♡♡

あーん♡♡♡

あーん♡♡♡

あーん♡♡♡

あーん♡♡♡

あーん♡♡♡  
あーん♡♡♡  
あーん♡♡♡





はあ...

はあ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...



んんん♡

ぽろぽろ♡

ぽろぽろ♡

ぽろ

ぽろ

ぽろぽろ♡

ぽろぽろ♡

ぽろ

ぽろ

ぽろ







二人目♡



2人目♡















